

埼玉県神社庁設立七十周年記念

# 『神職実態調査』報告書

平成 31 年 3 月

埼玉県神社庁教化委員会

# 序

埼玉県教化委員会 委員長 山田 禎久

今期教化委員会（平成二十八年四月～平成三十一年三月）では、三年間の活動主題を「現代の神社経営一二十年後の社会に向けて」と設定した。

「経営」という言葉の響きから、社入の増加を目的としていると受け取られることもあり得ようが、言うまでもなくそうした姿勢を目指したわけではない。祭りを維持し社殿を護持し、鎮守の杜を守り繋げるために欠かせない課題を再確認する、というのが具体的な目標だ。課題を浮き彫りにし、対応策を提示するべく、各部各班は事業・研修の題材を「神社の経済問題」と「後継者問題」とに分けて数多くの活動を進めた。

神社が国や地域の長い記憶に根差した存在であることは論を俟たない。ならば我々神職は本来、自らの視点を悠久の時の流れに据え、百年千年の先をみつつ今日の神明奉仕にあたることが肝要だろう。

しかし一方で、現実の地域間格差は年を追うごとに増大している。経済的な格差ばかりではない。人口的な格差・地域性に基づく信仰心の格差も深刻さを増しつつある。神社を取り巻く環境の変化の度合いは、これまでにないほどの速度を孕んでいると感じざるを得ない。

埼玉県は都市部と過疎地域を抱え、神職の置かれた状況や意識も決して一様ではない。現時点での後継者に対する意識・運営状況に対する意識を把握し、教化施策に活用できる資料として纏めたいと考えた。

ちょうど十年前、國學院大学の石井研士教授は埼玉県内の神職を対象に同様の調査を行われた。十年を経て県内神職の意識がどの様に変化したか、あるいはしていないかを見るために今回も石井教授にご助言を仰ぎ、事業部新渡戸・嶋田両班が神職なりの目で分析にあたった。我々の期では調査をまとめるまでが限界であったが、今後この資料を事業の実践に活かしていただくことを願ってやまない。

本冊子は調査集計ばかりでなく、結果を基に幾度も議論と分析を重ねた両班の努力の結晶といえる。改めて新渡戸嶋田両班長・班員・そして折に触れてご指導を賜った石井研士教授・秩父神社権禰宜新井君美氏・事業部担当副委員長の原泰明氏に対し衷心より感謝申し上げたい。

平成三十一年三月吉日

## 目次

1. 『後継者問題実態調査』報告（新渡戸班）	3 ～ 20
○結果と比較（宮司回答）	21 ～ 29
○結果と比較（配偶者回答）	30 ～ 32
○結果と比較（後継者回答）	33 ～ 36
2. 神社の『現状』に関する調査報告（嶋田班）	37 ～ 43
3. 神社の『二十年後の社頭』に関する調査報告（嶋田班）	43 ～ 47

## ■ 『後継者問題実態調査』報告

### 1. 調査目的

本調査研究は、急速な少子化や高齢化、近年ますます顕著になった過疎化・限界集落化が進む現代社会において、神社の後継者現状を把握することを目的としている。

これまでも後継者の問題は、斯界の重要な問題として認識されてきた。平成10年代になってから、埼玉県をはじめ、新潟県、山口県、山形県、大阪府などで調査が行われるようになった。平成27年には全国の本務神社を対象に「神社・神職に関する実態調査」が実施され、後継者についても7問が設問として設けられた（『神社・神職に関する実態調査』報告書』平成28年、神社本庁総合研究所）。

埼玉県では平成18年に本務宮司、宮司配偶者、後継予定者を対象にアンケート調査が実施された（『埼玉県・後継者問題実態調査報告書』平成20年）。この調査は平成14年度に國學院大學が採択された文部科学省21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」事業の一環として石井研教授が埼玉県神社庁の協力により実施されたものである。調査の実施に当たっては、高橋千里氏を委員長とする委員会が構成され、質問紙の作成、調査、座談会を行った。

今回の調査は第1回調査から10年経過したのを機に、その後の変化と現状を把握するために行われた。

### 2. 調査時期

平成28年10月4日	第1回打合せ
11月1日	第2回打合せ
平成29年3月	アンケート第1回送付
4月末日	アンケートの回収締切
5月	アンケート第2回送付
6月末日	アンケート回収、最終締切
7月	督促状送付
8月末日	最終締切

### 3. 調査対象の基本的属性

アンケート対象は、本務宮司、宮司配偶者、後継者で、対象数は図表1の通りである。アンケート用紙は支部を介して個々の本務神社へ配布された。アンケート用紙の回収は、無記名で直接國學院大學石井研教授宛に郵送形式をとった。

図表1 配布数・回収数・回収率

	配布数	回収数	回収率(%)
宮司	250	168	68.8
宮司配偶者	250	137	54.8
後継者	250	110	44.0

宮司アンケートには本務神社が所属する支部名と旧支部名が記されている。現在の支部と旧支部別の配布数・回収数・回収率は以下の通りである。

図表2 支部別の回収数

支部名	配布数	回収数	回収率(%)
北足立支部	33	24	72.3
入間東支部	23	15	65.2
入間西支部	33	27	81.8
比企支部	19	10	52.6
秩父支部	32	22	68.8
大里児玉支部	50	34	68.0
さきたま支部	32	19	59.4
埼玉東支部	28	17	60.7
合計	250	168	67.2

図表3 旧支部別の回収数

旧支部名	回収数
北足立支部	30
入間支部	42
比企支部	10
秩父支部	22
児玉支部	10
大里支部	24
北埼玉支部	9
南埼玉支部	16
北葛飾支部	5
合計	168

◇まず初めに、今回行ったアンケートの中で注目したい点を上げてみたいと思う。

- 後継者がいると答えた神社が10年前と比べて約10%減少した。
- 主たる生計で神職専業でも年金等で奉務している宮司が全体の約3割増え、兼業の方が減った。
- 宮司と後継者の関係は親子関係が圧倒的に多い。また、宮司と後継者の性別が圧倒的に男性が多い。
- 神職奉務はせず会社などへ勤務している割合は少し減り、神職専業や他神社で専業、他職と兼業が増えている。
- 自分の子供（後継者）が神社とは異なった職業に就きたいと言った場合、奉職するように説得する方が減り、本人の意思を尊重する方が増えた。
- 後継者が将来神職を継ごうと考えた時期は大学生以下で72.7%（平成29年）・60.9%（平成19年）と10年前と比べて、増えている。
- 後継者の選定の際に問題になったことがあるかとの質問では「神社の経済的基盤に不安を感じている」が多い。
- 後継者がいる宮司さんで、自分（宮司）が一生懸命神明奉仕していれば、子供（後継者）は必ず理解し、継ぐようになると思うかとの質問に、「そう思う」が減り、「そうは思わない」が増え、10年前と考え方が大きく変化した。
- 後継者がいない宮司さんが将来、神社に後継者が「いなくなることがあってもやむを得ないと思う」と答えた方が42%で、10年前より16%増えている。また、「いなくなることはいけないと思う」は40%で24%減っている。考え方が逆転している。
- 後継者がいない宮司さんで、自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもよいと思うかとの質問で、良いと思うが増え、いけないと思うと答えた方が0になった。

◇次にアンケート結果を受けて、担当事業部の班員が分析し、後継者問題について意見を纏めました。

（班員A）

10年前と比べ後継者がいる神社は約10%減った。

10%という数字だけ見ると大したことはないような気がするが、前回のアンケートでは約80%が後継者がいると答えているのに対し、今回は約70%としてみると大きく数字が下がっていることに気づく。個々の問題でもあるので一概には言えないと思うが、その原因についてはアンケートの結果から考察してみた。

予想としては社入で生計を立てていけるところほど後継者が決まりやすいと思っていたが、その傾向はみられた。しかしながら後継者がいる割合は農山村も住宅街もほぼ変わらなかった。社入から生計立てている割合が73%を超える北足立支部と25%の大里児玉支部で後継者がいる割合が約80%と変わらないのは興味深い。

また、後継者との関係は親子が圧倒的に多いが、アンケートの結果も第三者を招くことをよいと思うという意見が増えている。良くも悪くも農山村の方が後継者に対しての古からの意識は高いのではないだろうか。

後継者がいつごろから正式に神職になってほしいかというアンケートについては、宮司が奉務出来なくなりそうなき・できなくなった時と答えた人が約52%と非常に多い。この曖昧な奉務時期も問題なのではと思う。早い段階で現宮司と一緒に奉務していくことで神職としての意識を強めておく必要があるのではないだろうか。それは、子供の頃から神社子弟としての教育も大変重要なのではないかと思う。

現在後継者がいない宮司への将来、神社に後継者がいなくなることがあってもやむを得

## 「神職実態調査」報告書

ないかという質問に対し、いなくなってもやむを得ないという答えが42%あるが、これは大変なことだと思う。長い歴史を紡いできた神社をお護りするのが神職の務めだと思うが、その神社をお護り続けていく意識さえなくなってしまうといけないと思う。

アンケートの中には神職資格の取得に時間がかかりすぎるとの意見があった。しかしながら子弟として育てていく中で家庭でよく話し合い、時間のある学生のうちに取らせることだってかなうはず。となると後継者本人だけではなく、育てる側にも問題があると思う。アンケート中の他の職を希望した場合どうするかという質問に対し、子供の意思を尊重するという意見が多いようだが、これは一見話が分かる人のようでいて何もしないと同じなのではないだろうか。

アンケートの結果からある程度、第三者が継ぐことへの抵抗が減ってきているのも事実である。しかし、神社は氏子・崇敬者との特別なコミュニティがあり、ある日突然知らない人が宮司になるのはなかなか難しいと思う。現在後継者がいない人は、いつ何があるかわからないので早めに後継者問題を考えるおく必要があると思う。

また、神社界でも後継者がいない神社に対して斡旋できるようなシステムを作ることも検討していただきたい。

座数 地区と生計のクロス表 (宮司・後継者あり)  
(質問4×質問5)

	生計				合計
	専業		兼業	無記入	
	社入から	年金等			
農山村	21	22	17	1	61
住宅街	28	12	8	1	49
工場街	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0
商業地	7	0	0	0	7
無記入	1	0	0	0	1
合計	57	34	25	2	118
合計	91		25	2	118

座数 新支部と生計のクロス表 (宮司・後継者あり)  
(質問4×質問5)

	生計				合計
	専業		兼業	無記入	
	社入から	年金等			
支部 北足立支部	14	1	3	1	19
入間東支部	6	2	2	0	10
入間西支部	8	7	6	0	21
比企支部	3	2	1	1	7
秩父支部	6	2	3	0	11
大里児玉支部	7	10	10	0	27
さきたま支部	4	5	0	0	9
埼玉東支部	9	5	0	0	14
合計	27	34	25	2	118
合計	91		25	2	118

### (班員B)

前回10年前のアンケート結果との比較で問題と思う点は、宮司の回答で後継者がいないと答えた方が約10%増えた29.8%、回答数で50名の方がそう回答している。

後継者がいない理由は人それぞれあると思いますが、一人で問題を抱えていてもなかなか解決できない事もある。少子化や晩婚化が進んでいるといわれている中、この先10年、20年後はさらに後継者がいないという方が増えていってしまうのではないかと心配される。

また、「後継者がいない」と答えた方の中で、子弟がいないから「子弟に継ぐ意思がない」「子弟に継がせようと思っていない」との回答が合わせて4割ある。

経済的に成り立たない等の事情はあると思われるが、せつかく子弟がおられるのだから、何とかうまく神社界全体で考え協力して解決してあげられないかと思う。

後継者のアンケート結果を見ますと、子供の頃から神社を継ごうと考えた方が10%近く増えてきている。また、7割以上の方が子供の頃から学生時代に神社を継ごうと思われている事から、後継者となる大半の方々には社会

## 「神職実態調査」報告書

人になる前に神社を継ぐことに対して自覚があり、大変良い傾向だと思う。

その反面、後継者になる事に十分納得しているかという点、3割強の方にはまだ迷いがあったり、表面上は継ぐようにしているが実際にはわからないという方がいるので、そういう方のフォローをしてあげられれば良いと思う。

また、配偶者の方のアンケートで65%の方が、小さい頃からの家庭教育が大切と答えているように、今後、後継者への教育を家庭教育に加え、支部をはじめ神社庁等で協力し合い、今まで以上にすすめていくことで、神社を継ごうと思う方を更に増やしていければ良いと思う。

(後継者無し宮司回答)

**【質問 27】** 現在後継者がいない理由について次の中からいくつでもお選びください

	回答数	平成29年	平成19年
後継者となる子弟が全くないから	23	41.1%	36.0%
後継者となる子弟に後継を継ぐ意志がないから	11	19.6%	14.0%
あえて子弟に次がせよと思っていないから	12	21.4%	24.0%
後継者がまだ資格を取得していないから	4	7.1%	18.0%
その他	6	10.7%	8.0%
合計	56	100.0%	100.0%

(後継者回答)

**【質問 6】** あなたが将来、神職となって神社を継ごうと考えたのはいつ頃ですか

	回答数	平成29年	平成19年
子どもの頃から	32	29.1%	19.6%
中学生の頃から	5	4.5%	5.6%
高校生の頃から	15	13.6%	15.6%
大学生の頃から	28	25.5%	20.1%
社会人になったから	21	19.1%	20.1%
定年あるいは退職が近くなってから	2	1.8%	5.0%
その他	3	2.7%	8.4%
無回答	4	3.6%	5.6%
合計	110	100.0%	100.0%

(配偶者回答)

**【質問 12】** 子どもが継ぐためには、小さい頃から家庭教育が大切だと思いますか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	71	65.74%	50.5%
そうは思わない	12	11.11%	19.1%
わからない	18	16.67%	24.5%
無回答	7	6.48%	5.9%
合計	108	100.0%	100.0%

(班員C)

アンケート結果を見て、後継者問題は簡単に解決できる事ではないと思う。自分の生き方を決めていく上での重要な問題だ。後継者が「いる」と答えている方は、ひとまず問題なしとしていいかもしれない。一方「いない」と答えた方については、血の繋がりを優先した後継者選びだけでは難しいと思える。広い視野で考えて、神社を持っていない神職さんに、引き継いでもらおう事も考える必要があると思う。なかなか他の神職に相談しづらい等の理由で、先延ばしにしてしまうこともあるかと思うが、気軽に相談できる窓口や、神職人材センター（登録制）のようなものが有れば良いと思う。

神職の魅力についての質問で、「伝統ある神社を継承できる」と「地域の人々や地域社会に貢献できる」と答えた方が多かった。兼業だと専業の方に比べて、地域の人々や地域社会に貢献することが少し難しいように思う。しかし、経済的に安定するためには兼業する必要があるのでは、致し方ないのかもしれない。伝統ある神社を継承するため、神職の質の向上も不可欠で、総代さんや地域の方々と良い関係を築き、神社の発展に繋げることが、後継者問題にも少なからず関係するのではないかと思う。

(班員D)

### 1、「後継者問題」

先ず、資格を取得することが大前提になってくる。私の親族で2回の講習を受けてどうか、権正階を取得することができた。1回目の講習の時は、会社を辞めなくてはならなかった。2回目は、会社の好意により年休を全て使うことにより、どうか受講することができた。1ヶ月連続ではなく、せめて2回に分けて受講できるようにしていただけたらと思う。また、以前のように1回の受講で、宮司になれるようにしていただければと思う。その結果、あまり負担にならずに受講者も増えていくのではないかと思う。

### 2、「経済的問題」

農山村にある神社の殆どが抱えている問題である。一人でも多くの氏子の方々に、楽しく来ていただくことを考えてみたい。私の神社のことで申し訳ありませんが、当社は、年3回御神楽を実施している。5～6年前の氏子総代が、祭神名など記した看板を2ヶ所に設置、境内・参道に照明を設置、御神楽の合間に子供達を対象にしたゲーム大会、演奏会、屋台の設置などを実施したところ、大幅に子供達の数が増え、同時に大人の数も増加した。また、境内にあるものを積極的に活用することも必要だと思う。例えば、御神木があれば触ったり周ったりすることができるようにする。「力石」があれば、持ち上げたり、起こしたりすることができるように工夫する。お参りだけでなく、もう一つの楽しみを工夫してみてもどうだろう。地元の神社に親しみを持っていただくところから始めてみてはどうだろうか。

### 3、「神社・宮司の存続に関する問題」

どうしても神社を継ぐことができない場合、先ず、近くの宮司さんをお願いすることになると思う。私も、実際に隣の地区の神主

さんからお願いされたが、とにかく大変だった。しかし、必ずしも、引き受けていただけたとは限らない。その場合、近くの神職が複数いる神社をお願いすることが良いと思います。また、各支部には何社かの別表神社があるので、今後のことを考えると、その方が現実かもしれない。例祭の時だけでも派遣していただける仕組みがあると、より安心だと思う。血の繋がりを第一に考えていると、かなり難しさはあると思うが、このような事例は近い将来必ず起きてくるので、早くからその対応を考えておく必要があると思う。いろいろ書いてきたが、後継者には、幼いうちから、よく話し合い、継ぐ気持ちになってくれるように育てていくことが、これらの問題が少しでも解消する一番の要因かもしれない。

.....

(班員E)

十年前とアンケート結果を比較すると、我々が想像する以上の深刻な問題が浮き彫りとなった。

「後継者が神社とは異なった職業に就きたいといった場合、あなたは次のうちどのような対応をとっていたと思いますか」という問いに「奉職するように強く子供を説得する」という考えは少し減少し、「子供の意見を尊重して認めたと思う」が増加。また現在も十年前も過半数以上が「資格だけは取って将来的に後継者となることを考えるように勧める」と回答した。神職とは日本古来の風習や文化の中心に立たなくてはならない存在である。その神職という存在を個人の意思で辞めることができるという考え自体が危険だと感じた。

戦後の神道指令の施行から宗教法人法の導入、高度経済成長期を経ることで、神職が先導者でなく職業の一つという枠組みに当てはめられてしまった事が使命感の低下に繋がっているのかもしれない。

## 「神職実態調査」報告書

子供の意見を尊重する、将来的に後を継いでくれるなら現段階では好きに生きてもいい、といった問題の先送りの考えは言うなれば逃避に近い。この楽観的な考えは我々にとっても常識となりつつあるので、日々の神明奉仕と次世代へのバトンタッチを持って完遂される。よって後継者に対し、「必ず継がせる」という意志と、そういった教育を施せる状況を作り出すことが必要だ。

アンケートから見ると、やはり一番の問題は「経済的不安」が大きく関係しているという事だ。神主といえども社会を形成する一人の人間である。よりよい生活を求めるためには安定した収入と保証が必要である。宮司が経済的基盤に不安を感じていたら、子の将来を案じるあまり、違う道に進むことを拒むことは、現実的ではないかもしれない。後継者の立場からでも、経済的な問題はクリアしたとしても、地元氏子に受け入れてもらえるのか等の不安やストレスも多く、魅力を感じなくなってしまうケースも少なくない。

ようやく本題であるが、ではそれらをどのように解決するのか。

結論から言えば、解決策はない。

神社組織というものは非常に曖昧なもので、信頼や風習や義理人情によるものが大きく、そこには強制的な主従関係や金銭的な雇用関係などがほとんど存在しない。個々に独立した神社の考えや風習が存在し、協力的な神社もあれば閉鎖的な神社もある。埼玉県は山間部と都市部では人口にも埋めようのない差がある。

それぞれの地域や個性に見合う解決策は到底見当たらないが、考え方を変えることによって後継者に継いでもらえる状況を作り出すことはできる。

先程も問題に挙げたが「使命感」が重要だと考える。経済的基盤に使命感が揺らぐ事は仕方ないことだと思うが、経済的な事が問題であるのならば、それを解消する方法を考え

ればよい。

本当に考えているだろうか、実際に行動しているだろうか。使命よりも怠惰が勝ってないだろうか。副業やPR活動、節制に至るまで、少しでもできることはあるだろう。後継者には神社を盛り上げる策はあるかもしれない。挑戦したい心があるかもしれない。その全ての策を投じ、万策尽きるまで神社に、地元へ寄り添う事はできるだろう。跡地に立てられた看板に、神社の由緒書だけが残る場所にしてはいけない。神主という存在が一体どんなものであるか、今一度考え直していただきたい。

### (後継者あり宮司回答)

**【質問 17】** 自分の子ども(後継者)が神社とは異なった職業に就きたいと言った場合、あなたは次のうちのどの対応をとっていたと思いますか

	合計	平成29年	平成19年
奉職するよう強く子どもを説得する	10	8.5%	19.2%
子どもの意思を尊重して認めたと思う	22	18.6%	12.1%
資格だけは取って将来的に後継者となることを考えるよう勧める	68	57.6%	52.5%
なりゆきに任せる	9	7.6%	6.1%
どう対応していいかわからない	0	0.0%	2.0%
その他	6	5.1%	2.5%
無回答	3	2.5%	5.6%
合計	118	100.0%	100.0%

### (班員F)

○後継者問題アンケート調査集計から見出す問題に対しての方策

後継者問題の調査から見出せる大きな問題は、後継者が不足している神社が確実にあるということということ、その背後に経済的な不安があるという2点であると思われる。以下に、その2点に対する解決提言をする。

## 「神職実態調査」報告書

### ①経済的不安に対しての方策

- ・ 話題を呼ぶような他業者との提携商品を作る。
- ・ その地域の伝統工芸品とのコラボレーション。
- ・ 収入の多くない神社は兼業する。  
そのため、仕事の為に祭日に出られない時に代行してもらえる神主をより簡便に依頼できるようにする。(支部内などの枠にとらわれず打診できるシステムを神社庁が作る。)
- ・ 経済力がある神社は多角経営し、収益をあげる。(神職免許を持ちながら、本務神社がないために他業種に流れてしまう人など受け皿としても活用する。)
- ・ 地域住人、氏子総代、崇敬者とのコミュニケーションの方法を研鑽し、実践し、相互利益が生じるような関係づくりに励む。(地域の特産品を神社でも取り扱う、後継者探しに地域住人から候補者を出してもらうなど。)

### ○後継者不足に対しての方策

- ・ 神社庁が派遣神主制度をつくる。(一時的、恒常的なもの、どちらにも対応できるように。)
- ・ 研修制度の見直し。  
経済的不安が多く、兼業せざる得ない人もいるため、高額で長期間の研修を受けるのは難しい人も少なくない。
- ・ 後継者の意識づくり  
現宮司達が後を継ぐと決めた経緯を聞き出し、後継候補者たちに良い影響が出そうなものがあるかどうか調査する。
- ・ 第三者の受け入れ  
社家出身でない神主と後継者を探している神社などの紹介、仲介、引き合わせを行う。  
双方、探している人が分かるようにする。
- ・ 早めの後継者作りを制度化する。  
宮司が高齢になってから引退して譲ると考えている人が多いが、高齢での引退と不意の死去などにより、十分な引継ぎができない、もしくは後継者そのものが決まっていないという状況も考えられる。  
役職の定年も設け(決して神主を引退するこ

とではなく、あくまで役職の譲渡)、候補者への引き継ぎ活動を義務付ける。

### ・ 神主の意識改革

他業種の方の研修を受け、第三者から見てどのように見えているのかを知る。

経営意識やコミュニケーション能力などの問題点を見つけ、改善に向けて策を練り、全体発信し共有して神社全体の質の向上に努める。

## 後継者問題に関する調査を終えて

教化委員会 事業部  
班長 新渡戸 常英

### 1. はじめに

今期教化委員会事業部では、山田教化委員長が掲げる「現代の神社経営～20年後の社会へ向けて」を活動テーマとして、また「後継者問題」と「神社経営問題」を主要テーマとして活動をしてきた。

我々後継者問題班として取り組むに当たり一番初めに着手しなければならなかったのは、まず埼玉県内の後継者問題の現状を知り理解する事であった。話を進めていくと、10年前に埼玉県神社庁の創立60周年記念事業の一環として、管内宮司また宮司配偶者及び後継者を対象として國學院大学の石井研士教授が監修を務め、実態調査を実施した事が分かった。

石井研士教授に実態調査の相談に伺ったところ、5年程度の経過では社会的変化はあまり見られないが、10年の歳月を過ぎた今、行なう価値は十分にあると激励され、今回はアドバイザーとして調査に協力を戴いた。また、秩父神社権禰宜であり、当時後継神職育成問題委員であった新井君美さんにも後継者問題に対し様々な助言を頂戴し、我々の班を鼓舞してもらった。

此の度、各支部を通して調査の御協力を戴いた管内の宮司に深く感謝を申し上げたい。

今回の実態調査に於いても、前回と同様に埼玉県神社庁創立七70周年の冠を掲げさせて戴いた。

10年前の調査では、管内神職の約9割からの高い回収率と比べ、今回は約7割と匿名性を重要視した結果、数値上はやや下がってしまったものの前回との比較が出来た点や、文字列として宮司・配偶者・後継者の本音や意見を回答戴けた点は大きな収穫であると思

う。

前回の調査を基本（ベース）として、時代に則した新たな設問を加えるなどの多少の変化を付けた。また、この調査は支部再編を行ってからの初めての調査となる事から、このデータを元に今後も推移してゆく埼玉県後継者問題対策の一助となれば有難い限りである。

### 2. 後継者問題を俯瞰的に見て

まず埼玉県の経済状況や人口変動率を鑑みると県北部と県南部では、かなりの人口格差が生じているのは皆様も御承知の通りである。

県の推計人口は732万人（平成30年10月1日現在）で、さいたま市や川口市など県南部を中心に増加している。

平成27年の国勢調査によると、平成22年から5年間の県南部の人口増加率は沖縄県と東京都に次ぐ3位で、一方で県北部を中心とした21市町村では人口が3%以上減少しており「南北」の格差がますます広がっている。この「南北」の格差は埼玉の神社にも少なからず影響を及ぼしている。

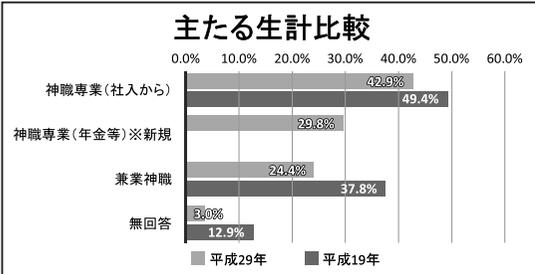
以上を念頭に置きながら、複雑化する埼玉県の神社の実態を紐解いてゆきたい。

「質問5：県内神職の主たる生計はなんですか」では、「神職専門は社入から」の割合が42.9%、そして新規の枠として「神職専門で主たる生計が年金」という割合が29.8%と約3割を占めた。10年前の調査では、約5割の方が神職専門と記入していたが、今回改めて神職専門といえども年金での収入で生計を立てている方が多いという事が分かった。特に農山村では、兼業も含め顕著にあらわれている。また、住宅街の神職も年金に頼っている方が割と多かった。

## 「神職実態調査」報告書

### 【質問 5】 あなたの主たる生計はなんですか

質問	合計	平成29年	平成19年
神職専業(社入から)	72	42.9%	49.4%
神職専業(年金等)※新規	50	29.8%	
兼業神職	41	24.4%	37.8%
無回答	5	3.0%	12.9%
合計	168	100.0%	100.1%



#### 度数 新支部と生計のクロス表(宮司・後継者あり)(質問1×質問5)

	生計				合計
	社入から	専業 年金等	兼業	無回答	
支部 北足立支部	14	1	3	1	19
入間東支部	6	2	2	0	10
入間西支部	8	7	6	0	21
比企支部	3	2	1	1	7
秩父支部	6	2	3	0	11
大里児玉支部	7	10	10	0	27
さきたま支部	4	5	0	0	9
埼玉東支部	9	5	0	0	14
小計	57	34	25	2	118
合計	91		25	2	118

#### 度数 新支部と生計のクロス表(宮司・後継者なし)(質問1×質問5)

	生計				合計
	社入から	専業 年金等	兼業	無記入	
支部 北足立支部	3	1	1	0	5
入間東支部	2	0	3	0	5
入間西支部	1	4	1	0	6
比企支部	2	0	1	0	3
秩父支部	2	5	3	1	11
大里児玉支部	1	3	3	0	7
さきたま支部	3	3	2	2	10
埼玉東支部	1	0	2	0	3
小計	15	16	16	3	50
合計	31		16	3	50

#### 度数 地区と生計のクロス表(宮司・後継者あり)(質問4×質問5)

	生計				合計
	社入から	専業 年金等	兼業	無記入	
農山村	21	22	17	1	61
住宅街	28	12	8	1	49
工場街	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0
商業地	7	0	0	0	7
無記入	1	0	0	0	1
合計	57	34	25	2	118
合計	91		25	2	118

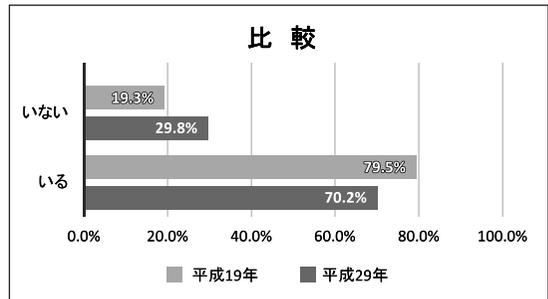
#### 度数 地区と生計のクロス表(宮司・後継者なし)(質問4×質問5)

	生計				合計
	社入から	専業 年金等	兼業	無記入	
農山村	4	13	7	3	27
住宅街	11	3	9	0	23
工場街	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0
商業地	0	0	0	0	0
合計	15	16	16	3	50

「質問 8: あなたの奉仕する神社には後継者に予定している人がおられますか」では、前回より「いる」と答えた方が1割減り、「いない」と答えた方は1割増えた。10年の間に1割の減少は、埼玉県にも後継者問題の影響が及び寄ってきたと思われる。特に「いる」の割合が秩父支部では50%、さきたま支部では47.4%とこの2支部では「いる」「いない」の割合がほぼ半数となり、かなりの危険領域となっている事が分かった。

【質問 8】 あなたの奉職する神社には後継者に予定している人(以下「後継者」といいます)がおられますか

	合計	平成29年	平成19年
いる	118	70.2%	79.5%
いない	50	29.8%	19.3%
無回答			1.2%
合計	168	100.0%	100.0%



度数 新支部と後継者の有無のクロス表(宮司・後継者あり)(質問1×質問8)

	後継者の有無		合計
	いる	いない	
支部 北足立支部	19	5	24
入間東支部	10	5	15
入間西支部	21	6	27
比企支部	7	3	10
秩父支部	11	11	22
大里児玉支部	27	7	34
さきたま支部	9	10	19
埼玉東支部	14	3	17
合計	118	50	168

## 「神職実態調査」報告書

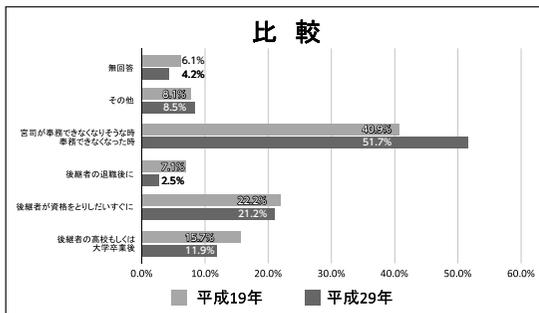
度数 地区と後継者の有無のクロス表  
(宮司・後継者あり) (質問4×質問8)

	後継者の有無		合計
	いる	いない	
農山村	61	27	88
住宅街	49	23	72
工場街	0	0	0
オフィス街	0	0	0
商業地	7	0	7
無記入	1	0	1
合計	118	50	168

以下、後継者「あり」と答えた方の回答として、「質問12：後継者にはいつ頃から正式に神職になってほしいですか」については、「宮司が奉務出来なくなりそうな時・出来なくなった時」が51.7%であり、前回より10%増えた。これについては、帰ってきてもらいたいのはやまやまだが、無理に早く帰ってこられても経済的に困るという複雑な心境が垣間見られる。

【質問12】後継者には、いつ頃から正式に神職になってほしいですか

	合計	平成29年	平成19年
後継者の高校もしくは大学卒業後	14	11.9%	15.7%
後継者が資格をとりしだすすぐに	25	21.2%	22.2%
後継者の退職後に	3	2.5%	7.1%
宮司が奉務できなくなりそうな時・奉務できなくなった時	61	51.7%	40.9%
その他	10	8.5%	8.1%
無回答	5	4.2%	6.1%
合計	118	100.0%	100.1%



度数 新支部と時期のクロス表 (宮司・後継者あり) (質問1×質問12)

	時期						合計
	高校や大学卒業後	資格を取り次第	後継者の退職後	宮司の引退後	その他	無回答	
支部							
北足立支部	1	6	1	8	1	2	19
入間東支部	3	3	0	4	0	0	10
入間西支部	4	2	1	11	3	0	21
比企支部	0	2	0	4	0	1	7
秩父支部	0	2	0	8	1	0	11
大里児玉支部	4	6	0	15	1	1	27
さきたま支部	0	0	1	6	2	0	9
埼玉東支部	2	4	0	5	2	1	14
合計	14	25	3	61	10	5	118

度数 地区と時期のクロス表 (宮司・後継者あり) (質問4×質問12)

	時期						合計
	高校や大学卒業後	資格を取り次第	後継者の退職後	宮司の引退後	その他	無回答	
農山村	6	14	2	35	2	2	61
住宅街	7	10	1	22	6	3	49
工場街	0	0	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0	0	0
商業地	1	1	0	3	2	0	7
無記入	0	0	0	1	0	0	1
合計	14	25	3	61	10	5	118

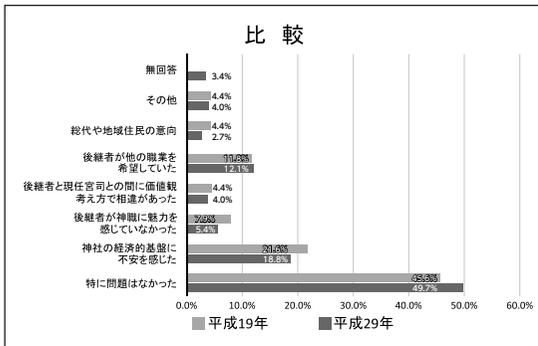
特に農山村については兼業の神職も多く、経済面が不安となり親子2人分の社入を神社で賄うことは難しいのが分かる。北足立支部と入間東支部には経済的基盤に不安はそれほどなく、他の農山村に位置する支部は不安を抱えている。

「質問14：後継者の選定の際に問題となったことがありますか」では、「特に問題なし」が5割という力強い意見が多くを占める。一方で経済的理由と後継者が他の職業を希望しているという理由も合わせて3割以上を占めた。

【質問14】後継者の選定の際に問題となったことがありますか (複数回答)

	(複数回答)		
	合計	平成29年	平成19年
特に問題はなかった	74	49.7%	45.6%
神社の経済的基盤に不安を感じた	28	18.8%	21.6%
後継者が神職に魅力を感じていなかった	8	5.4%	7.9%
後継者と現任宮司との間に価値観・考え方で相違があった	6	4.0%	4.4%
後継者が他の職業を希望していた	18	12.1%	11.8%
総代や地域住民の意向	4	2.7%	4.4%
その他	6	4.0%	4.4%
無回答	5	3.4%	
合計	149	100.0%	100.0%

# 「神職実態調査」報告書



度数 新支部と選定の際の問題クロス表(複数回答)(宮司・後継者あり)(質問1×質問14)

	選定の際の問題								合計
	特になし	経済的基盤に不安を感じた	後継者が神職に魅力を感じない	後継者と宮司の価値観の相違	後継者が他の職業を希望	総代や地域住民の意向	その他	無回答	
支部	12	4	1	1	2	0	2	1	23
北足立支部	8	1	1	1	1	1	1	0	14
入間東支部	10	6	2	1	7	1	0	1	28
入間西支部	5	2	0	0	2	1	0	0	10
比企支部	7	1	1	0	1	1	0	2	13
秩父支部	18	7	0	1	3	0	2	0	31
大里原支部	4	1	1	0	0	0	0	0	11
さきたま支部	8	3	2	1	2	0	1	1	19
埼玉東支部	7	4	1	1	0	0	0	0	13
合計	74	28	8	6	18	4	6	5	149

度数 地区と選定の際の問題のクロス表(複数回答)(宮司・後継者あり)(質問4×質問14)

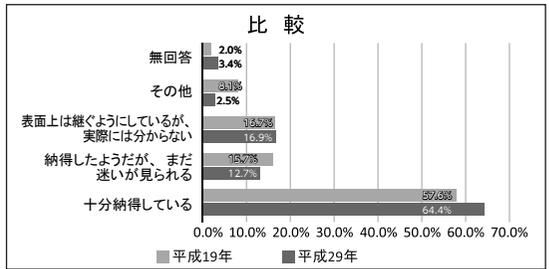
	選定の際の問題								合計
	特になし	経済的基盤に不安を感じた	後継者が神職に魅力を感じない	後継者と宮司の価値観の相違	後継者が他の職業を希望	総代や地域住民の意向	その他	無回答	
農山村	40	15	2	1	8	2	2	2	72
住宅街	30	10	4	3	9	1	4	2	63
工場街	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0	0	0	0	0
商業地	4	3	2	2	1	1	0	0	13
無記入	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	74	28	8	6	18	4	6	5	149

「質問15：後継者の決定に関して次のうちのどの要因が大きく働きましたか(複数回答)」では、本人の自主的選択の割合が前回調査の26%から33.7%に上昇し、社家としての使命感も27.8%と後継者の意識が高い事が分かる。これは農山村と住宅街ともに高い数値となった。また農山村での親の意向は27名だが住宅街では15名と若干少ない。これも経済状況が良いと後継者は決まり易いということになるのではない。

「質問16：後継者は自分の置かれている状況を十分に納得していると思いますか」では、「十分に納得」が増加し6割強と多く子供を信頼し尊重している宮司が多数である。一方、配偶者の立場から見ての後継者と、後継者自身が「十分に納得」も約6割と共通認識があり、親子間の強い絆を感じさせる。

【質問16】後継者は自分の置かれている状況を十分に納得していると思いますか

	合計	平成29年	平成19年
十分納得している	76	64.4%	57.6%
納得したようだが、まだ迷いが見られる	15	12.7%	15.7%
表面上は継ぐようにしているが、実際には分らない	20	16.9%	16.7%
その他	3	2.5%	8.1%
無回答	4	3.4%	2.0%
合計	118	100.0%	100%



度数 新支部と状況の納得のクロス表(宮司・後継者あり)(質問1×質問16)

	状況の納得					合計
	十分納得	まだ迷い	実際には分らない	その他	無回答	
支部	14	1	4	0	0	19
北足立支部	4	4	1	0	1	10
入間東支部	12	4	5	0	0	21
入間西支部	5	1	0	0	1	7
比企支部	8	1	2	0	0	11
秩父支部	16	1	6	2	2	27
大里原支部	6	1	1	1	0	9
さきたま支部	11	2	1	0	0	14
埼玉東支部	7	1	2	0	0	10
合計	76	15	20	3	4	118

度数 地区と状況の納得のクロス表(宮司・後継者あり)(質問4×質問16)

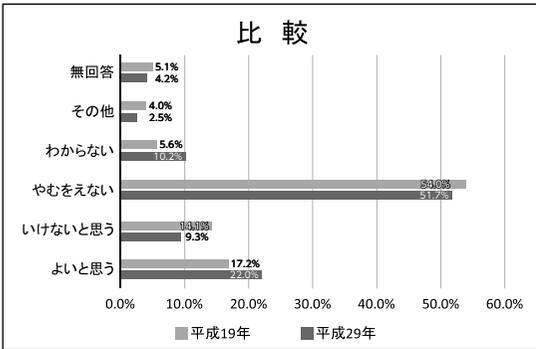
	状況の納得					合計
	十分納得	まだ迷い	実際には分らない	その他	無回答	
農山村	36	10	11	1	3	61
住宅街	36	2	8	2	1	49
工場街	0	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0	0
商業地	4	2	1	0	0	7
無記入	0	1	0	0	0	1
合計	76	15	20	3	4	118

「質問18：自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもいいと思いますか」に対し、「いけないと思う」9.3%、「よいと思う」22%、「やむをえない」51.7%と、第三者の後継は神社を護持する為にはある程度受容されていると思われる。また、一般論として同様の質問を尋ねると、約8割の宮司は第三者に譲っても良いと考えている。

「神職実態調査」報告書

【質問18】自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもよいと思いませんか

	合計	平成29年	平成19年
よいと思う	26	22.0%	17.2%
いけないと思う	11	9.3%	14.1%
やむをえない	61	51.7%	54.0%
わからない	12	10.2%	5.6%
その他	3	2.5%	4.0%
無回答	5	4.2%	5.1%
合計	118	100.0%	100.0%



度数 新支部と第三者の場合のクロス表（宮司・後継者あり）（質問1×質問18）

	第三者						合計
	よい	いけない	やむをえない	わからない	その他	無回答	
支部 北足立支部	5	4	6	3	1	0	19
入間東支部	0	1	7	0	0	2	10
入間西支部	4	3	13	0	1	0	21
比企支部	2	1	3	1	0	0	7
秩父支部	5	0	3	2	0	0	11
大里原玉支部	5	1	16	3	1	1	27
さきたま支部	4	0	3	1	0	1	9
埼玉東支部	1	1	10	2	0	0	14
合計	26	11	61	12	3	5	118

度数 地区と第三者のクロス表（宮司・後継者あり）（質問4×質問18）

	第三者						合計
	よい	いけない	やむをえない	わからない	その他	無回答	
農山村	14	4	32	5	2	4	61
住宅街	9	7	25	6	1	1	49
工場街	0	0	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0	0	0
商業地	3	0	3	1	0	0	7
無記入	0	0	1	0	0	0	1
合計	26	11	61	12	3	5	118

後継者「なし」と答えた方の質問では、新支部と後継者がいない理由として、さきたま支部に「子弟が全くいない」が11名中8名もいるのは驚くべき結果であり危惧される。秩父支部では、13名中「子弟が後を継ぐ意志が無い」が4名、「継がせようと思っていない」が5名と深刻さが際立ち、地区の不安要素が結果として表れている。

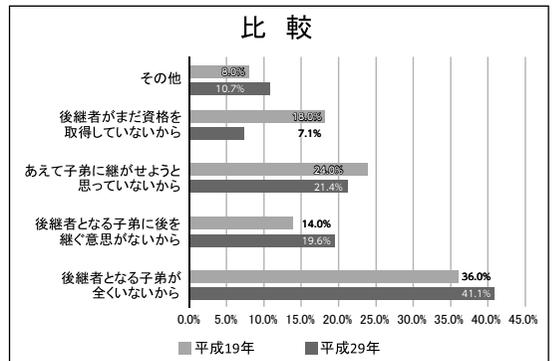
地区と後継者がいない理由として、「後継者となる子弟が全くいない」が10年前よりやや伸びている。前述の回答の他に農山村と住宅街が合わせて23名である。

特に秩父支部では「子弟が全くいない」が2名、「子弟に後を継ぐ意志が無い」が4名、「継がせようと思っていない」が5名、「資格を取得していない」が1名と、かなり危機的状况となっている。

さきたま支部も「子弟が全くいない」が8名であり余談を許されない状況である。

【質問27】現在後継者がいない理由について次の中からいくつでもお選びください

	回答数	平成29年	平成19年
後継者となる子弟が全くいないから	23	41.1%	36.0%
後継者となる子弟に後を継ぐ意思がないから	11	19.6%	14.0%
あえて子弟に継がせようと思っていないから	12	21.4%	24.0%
後継者がまだ資格を取得していないから	4	7.1%	18.0%
その他	6	10.7%	8.0%
合計	56	100.0%	100.0%



## 「神職実態調査」報告書

度数 新支部と後継者がいない理由のクロス表  
(複数回答)(宮司・後継者なし)(質問1×質問27)

度数 地区と後継者がいない理由のクロス表(複数回答)(宮司・後継者なし)(質問4×質問27)

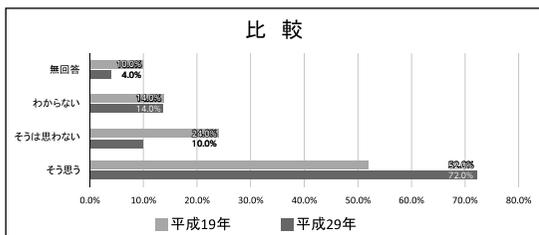
	後継者がいない				その他	合計
	子弟が全くいない	子弟に後継を継ぐ意思がない	継がせようと思っていない	資格を取得していない		
支部 北足立支部	3	0	1	2	1	7
人間東支部	0	2	2	0	1	5
人間西支部	2	3	0	0	2	7
比企支部	2	0	0	0	1	3
秩父支部	2	4	5	1	1	13
大里児玉支部	3	1	2	1	0	7
さきたま支部	8	1	2	0	0	11
埼玉東支部	3	0	0	0	0	3
合計	23	11	12	4	6	56

	後継者がいない				その他	合計
	子弟が全くいない	子弟に後継を継ぐ意思がない	継がせようと思っていない	資格を取得していない		
農山村	10	7	7	3	2	29
住宅街	13	4	5	1	4	27
工場街	0	0	0	0	0	0
オフィス街	0	0	0	0	0	0
商業地	0	0	0	0	0	0
合計	23	11	12	4	6	56

「質問33：経済状況のよい神社ほど後継者は決まりやすいと思いますか」では、10年前に比べ「そう思う」は7割と圧倒的であり、「そう思わない」は1割しかない。

【質問33】 経済状況のよい神社ほど後継者は決まりやすいと思いますか

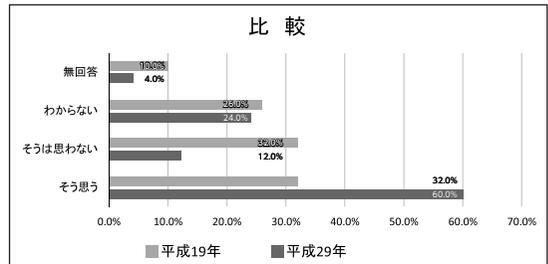
	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	36	72.0%	52.0%
そうは思わない	5	10.0%	24.0%
わからない	7	14.0%	14.0%
無回答	2	4.0%	10.0%
合計	50	100.0%	100.0%



「質問34：都市部の神社のほうが過疎地の神社よりも後継者は決まりやすいと思う」で「そう思う」が10年前の倍の6割もいる。「そうは思わない」はわずか1割であった。

【質問34】 都市部の神社の方が過疎地の神社よりも後継者は決まりやすいと思いますか

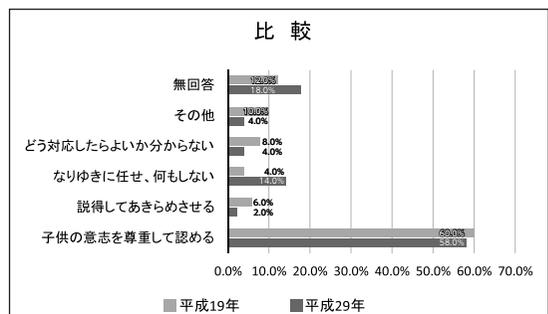
	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	30	60.0%	32.0%
そうは思わない	6	12.0%	32.0%
わからない	12	24.0%	26.0%
無回答	2	4.0%	10.0%
合計	50	100.0%	100.0%



「質問35：自分の子供（後継者）が神社とは異なった職業に就きたいといった場合、あなたは次のうちどれを選択しますか」では前回同様に「子供の意志を尊重して認める」が約6割となり、「なりゆきに任せ何もしない」が14%と1割の増加となった。

【質問35】 自分の子供（後継者）が神社とは異なった職業に就きたいと言った場合、あなたは次のうちのどれを選択しますか

	回答数	平成29年	平成19年
子供の意志を尊重して認める	29	58.0%	60.0%
説得してあきらめさせる	1	2.0%	6.0%
なりゆきに任せ、何もしない	7	14.0%	4.0%
どう対応したらよいか分からない	2	4.0%	8.0%
その他	2	4.0%	10.0%
無回答	9	18.0%	12.0%
合計	50	100.0%	100.0%



## 「神職実態調査」報告書

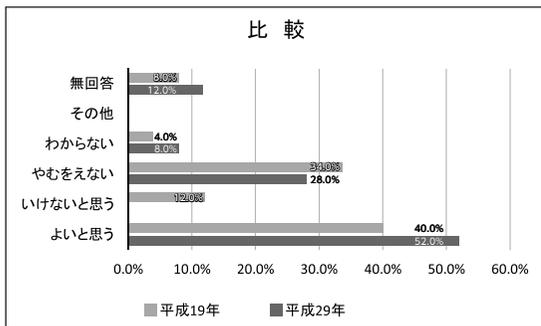
度数 新支部と他職希望の場合のクロス表  
(宮司・後継者なし) (質問1×質問35)

	他職希望の場合					無回答	合計	
	意志を尊重	認得して あきらめ させる	なりゆき に任せる	わからない	その他			
支部	北足立支部	2	0	0	1	0	2	5
	入間東支部	3	0	1	0	1	0	5
	入間西支部	4	0	0	1	0	1	6
	比企支部	1	1	1	0	0	0	3
	秩父支部	7	0	2	0	0	2	11
	大里児玉支部	6	0	1	0	0	0	7
	さきたま支部	5	0	1	0	1	3	10
	埼玉東支部	1	0	1	0	0	1	3
合計		29	1	7	2	2	9	50

「質問36：自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもよいと思いませんか」に対し、「良いと思う」は5割、「やむをえない」が3割と、実に8割は神社を守るためには致し方ないと割り切っている。「いけないと思う」は前回12%に対し、なんと「無し」で、もはや諦めの境地である。

【質問 36】 自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもよいと思いませんか

	回答数	平成29年	平成19年
よいと思う	26	52.0%	40.0%
いけないと思う	0	0.0%	12.0%
やむをえない	14	28.0%	34.0%
わからない	4	8.0%	4.0%
その他	0	0.0%	
無回答	6	12.0%	8.0%
合計	50	100.0%	98.0%



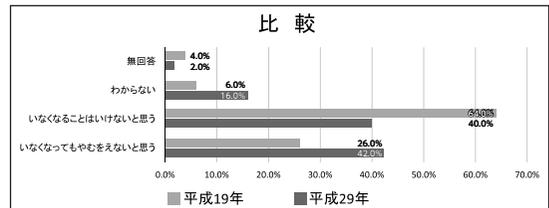
度数 新支部と第三者の場合のクロス表 (宮司・後継者なし) (質問1×質問36)

	支部	第三者					無回答	合計
		よい	いけない	やむをえない	わからない	その他		
	北足立支部	1	0	1	1	0	2	5
	入間東支部	2	0	3	0	0	0	5
	入間西支部	2	0	2	1	0	1	6
	比企支部	0	0	1	2	0	0	3
	秩父支部	9	0	2	0	0	0	11
	大里児玉支部	4	0	3	0	0	0	7
	さきたま支部	7	0	1	0	0	2	10
	埼玉東支部	1	0	1	0	0	1	3
合計		26	0	14	4	0	6	50

「質問37：将来、神社に後継者がいなくなることがあってもやむをえないと思いませんか」では、「いなくなってもやむをえないと思う」が26%から42%と増加、「いなくなることはいけないと思う」が64%から40%と減少し、「わからない」が10%の増加で悲観すべき現実が迫っている。

【質問 37】 将来、神社に後継者がいなくなることがあってもやむをえないと思いませんか

	回答数	平成29年	平成19年
いなくなってもやむをえないと思う	21	42.0%	26.0%
いなくなることはいけないと思う	20	40.0%	64.0%
わからない	8	16.0%	6.0%
無回答	1	2.0%	4.0%
合計	50	100.0%	100.0%



この調査データだけ眺めると住宅地の神社と農山村の神社との差ばかり目が行き、悲観的な観測ばかりが頭を過るが、後継者問題で一際目を引いたのは、農山村であり<sup>よぎ</sup>年金や兼業が多いのにも関わらず、後継者が多数存在する入間西支部と大里児玉支部と埼玉東支部の存在である。特に後継者問題では、大里児玉では「いる」が79.4%、入間西では「いる」が77.8%、埼玉東でも「いる」が82.4%と、農山村に位置する神社では、経済的に余裕がないにも拘わらず、これだけ後継者がしっかり存在しているのは如何なる理由があるのだろうか。

私が不思議に思っていたところ、神島副委員長が「大里児玉だと農家をやりながら、何となくだけど食べていく土壌みたいなものがある」という話を伺った。経済状態に流されない後継者の深い覚悟と決意が前提にあっての社家の知恵だと思われる。生きる事とは食

## 「神職実態調査」報告書

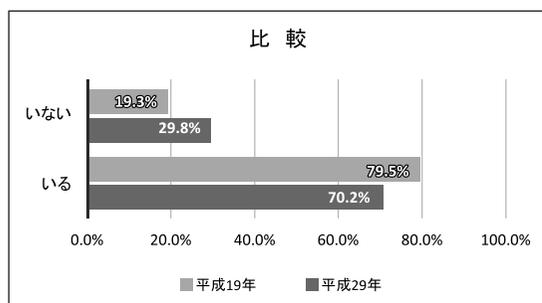
べていく事であり、神に感謝し農作物を作りながら神職を代々引き継ぐ土台が農山村には存在するのではないかと。

農山村の神職は平成30年9月に行われた教化研修会でご講演戴いた半農半X研究所代表の塩見直紀先生の「半農半X」というライフスタイルを具現化している存在だと思う。

「半農半X」の特徴は、専業ではないけれど農業に従事し、「X（天職・使命・生き甲斐・生きる意味）」を全うする事だということ。まさに「半農半X」は古くからの農山村の神職の叡智の結集であり、生き様であると言えるのではないだろうか。農山村での神職の指針として次世代に伝えるべき至宝となる生き方として捉えて欲しい。

**【質問 8】** あなたの奉職する神社には後継者に予定している人(以下「後継者」といいます)がおられますか

	合計	平成29年	平成19年
いる	118	70.2%	79.5%
いない	50	29.8%	19.3%
無回答			1.2%
合計	168	100.0%	100.0%



度数 新支部と後継者の有無のクロス表（宮司・後継者あり）（質問1×質問8）

	後継者の有無		合計
	いる	いない	
支部 北足立支部	19	5	24
入間東支部	10	5	15
入間西支部	21	6	27
比企支部	7	3	10
秩父支部	11	11	22
大里児玉支部	27	7	34
さきたま支部	9	10	19
埼玉東支部	14	3	17
合計	118	50	168

度数 地区と後継者の有無のクロス表（宮司・後継者あり）（質問4×質問8）

	後継者の有無		合計
	いる	いない	
農山村	61	27	88
住宅街	49	23	72
工場街	0	0	0
オフィス街	0	0	0
商業地	7	0	7
無記入	1	0	1
合計	118	50	168

### 3. 「拠点神社」構想の再考について

この「拠点神社」構想は、前埼玉県神社庁長で秩父神社の藺田稔宮司が提唱したものである。

内容としては、別表神社をはじめその地域を代表する比較的大きな神社において、在職する神職に地域内の神社を宮司として兼務させようとする試みである。

拠点神社の宮司が兼務し、実際には職員が祭典を奉仕する形や、更に踏み込んで職員1人1人が宮司となり氏子総代と協力して、それぞれの神社をお守りする仕組みを藺田宮司は以前から思案し、秩父神社でも実践されている。実は私の奉務する大宮の氷川神社でも同様の取り組みが行なわれている。

「拠点神社」構想という概念がなかった時代から地域の要請もあり、当時は自然な成り行きであったかもしれないが、今となっては理にかなった方策であると思われる。地域に根差した小規模神社との関係性は、別表神社から出向する事により氏子や総代にも認知され、信頼と安心感も維持されるであろうし、教化活動や社会活動にも役立つに違いない。

しかしながらこの「拠点神社」構想も限界の恐れが出てきている。後継者不足があまりにも多くなると、いくら別表神社の神職が他社より多く在職しているとはいえ限界が生じてしまう。地域の要請に応える事こそ我々神職の責務であるが、神社母体の力が失われていくようでは本末転倒となりかねない。別表

## 「神職実態調査」報告書

神社は可能な限り地域の神社に協力し、地域を支える柱となる様な体制が求められている。まずは後継者を減らさない対策が先決であろう。

### 4. 神職派遣制度の構築について

「拠点神社」構想から更に踏み込んで、我々は今回神職派遣制度の導入を提唱させて戴きたい。

昨今の氏子の減少や後継者不足・男女の未婚・晩婚化や少子高齢化の問題も然ることながら、氏子や総代・崇敬者と神職同士の関係性も希薄になりつつある中で、様々な理由から神社の維持・管理・運営が滞る案件が出てきている。

後継者が見込めない宮司や兼業の宮司、また急な事情で親の後を継いだ場合等、対処方法が分からず途方に暮れ、孤立無援に陥る神職もいるのではないか。もはや血の繋がりを優先した後継者選びだけでは限界になりつつある。人材派遣会社でも神職や巫女の派遣を行なっているが、兼務宮司の複雑な話などは依頼できる内容ではないと思う。

こうした事から、神社本庁直轄の神職派遣のなんらかの機関の設立が望まれる。強いて言うなら県内各地域の神社の問題点や神職の経歴や人柄、地域の神社の実情を良く理解している神社庁が窓口となり、外祭や結婚式・七五三・正月や例祭等の繁忙期の助勤、或いは兼務神社のお祭等の神職の派遣を斡旋する方が良いと考えている。依頼する立場からしても安心でき、地域の氏子や総代等も神社の関係機関からの神職の出向であれば歓迎されるであろう。

私は定年を迎えた方や神職資格を持っている方を主力に積極的に登用する事をお勧めしたい。特に今の60代70代の方は若々しく、経験や実績も豊富である。また県内の神社を退職した方であれば、地域の事情を良く知り、神職としての資質や振る舞いも自ずと備わっ

ている筈である。

人生50年と言われた時代から、もはや人生100年の時代に突入している。日本全体がこれから少子高齢化社会を迎える上で、避けては通れない道である。

高齢者が輝ける社会の実現は、この国の未来が懸っていると言っても過言ではない。仮に後継者が不在の場合の対応を含めて、神社を護持する為の対応を今のうちに打たなくてはならない。これからは神職の互助システムの早期構築が神社界の喫緊の課題となるだろう。

### 5. 「神主さんにご縁を結ぼう！」と「神主さんを学ぼう！」について

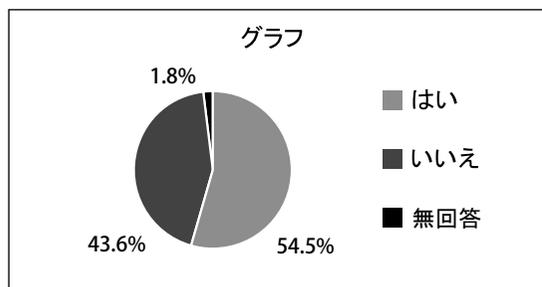
事業部の後継者問題班として神職実態調査だけで終わるのではなく、後継者問題の解決に直接的に繋がる2つの事業を実践した。1つは新渡戸班で行った婚活事業「神主さんにご縁を結ぼう！」、もう1つは嶋田班を中心に当班と共同事業で行った奉仕体験の「神主さんを学ぼう！」である。

まず「神主さんにご縁を結ぼう！」では神職が行う、神職の為の、神職による婚活事業であり、様々なりスクも予想され周辺の方々から御心配を戴いた。蓋を開けてみれば全国から95名もの募集があり、最終的に男女合わせて28名の中から8組の良き縁があった。事業としても特に問題なく完遂する事が出来た。

神職実態調査では婚活に興味がある独身の方は少数で、興味があるが参加しづらいという割合が多くを占めた。

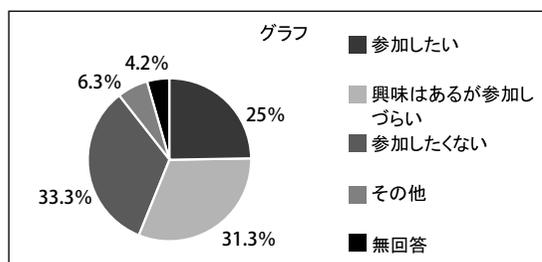
#### 【質問13】後継者回答・あなたは既婚者ですか（新規）

	回答数	平成29年
はい	60	54.5%
いいえ	48	43.6%
無回答	2	1.8%
合計	110	100.0%



【質問19】【質問13】で(いいえ)を選んだ人は、婚活パーティーや街コンなど、異性との出会いの場があれば参加してみたいですか

いいえ	48	
	回答数	平成29年
参加したい	12	25.0%
興味はあるが参加しづらい	15	31.3%
参加したくない	16	33.3%
その他	3	6.3%
無回答	2	4.2%
合計	48	100.0%



企画が終わり、言うのも憚られるが、私も当初はこの事業自体が懐疑的であった。何より独身の神職に対しお節介ではないかと思っていた。ところが今の時代はむしろ、そのお節介を取ってしなくてはならないのだ。昔も今も、背中を押してくれる人が必要である。

しかも班員の中に、同様の会が切っ掛けで結婚までこぎ着けた者もいて、是非婚活事業をやってみたいと申し出る班員に私も背中を押された。そして自分自身の意識を変えなければならないとも思った。会が終了し、参加戴いた女子の方にアンケートを取ったところ、「普段話す機会のない神職さんと話せて楽しかった」「神主さんから直接神社の作法を教えてもらい、身の締まる思いだった」「またぜひ参加したい」と概ね好意的な意見

であった。

県の神社庁の主催というのも、参加者が安心して参加できた一つの大きな要因であると思う。こういった婚活事業には賛否分かれると思うが、その全てを否定するならば後継者問題を現実から遠ざける事になり兼ねない。今後は婚活そのものの取り組みをある程度は受忍すべきではないかと考えている。

また奉仕体験「神主さんを学ぼう！」では、夏休み中に神職子弟の小中高生・大学生を対象に境内散策や雅楽を鑑賞し、神社の歴史や作法を体感する機会を設けた。後継者の情操教育の一環として、まず後継者自身が神社との繋がりがなければ「芽生え」も遅くなり、「目覚め」も起きない可能性も有り得る。後継者への自覚を促し、将来再会するであろう仲間達と思い出に残る交流を期待しての企画であった。少なくとも、この二つの事業で後継者問題の実践的解消への一歩は踏み出せたと思う。今後の後継者問題を考える上で、継続的に実施し、少しずつではあるが成果が上がる事を願っている。

## 6. むすびに

平成という時代は日本国民に数多くの自然災害をもたらした。特に未曾有の大惨事となった東日本大震災は衝撃的であった。我々は今までにみたこともない惨劇に悲しみを覚え、災害当初は人々が生きる方向性を失いかけていたように思えた。ただ、多くの命を奪ったこの自然災害は、改めて人々の絆や家族の大切さ、命の尊さ、日頃何気ない日常生活を過ごせる事の有難さを再認識させる一つの切っ掛けとなったように思える。国民は人と人との精神的な結び付きを強く意識し、若い世代でも家族で神社にお参りに来られる方が増加しているように感じた。特に平成の20年から30年にかけての10年間は全国の都市部に位置する神社にとっては、全ての点でややよい状態にあったと思われる。首都圏や大都

## 「神職実態調査」報告書

市圏の神社はご朱印ブーム、20年に一度の伊勢神宮、60年に一度の出雲大社の式年遷宮が重なる、俗に「ダブル遷宮」と言われる慶賀すべき年となり、神社熱は活気を帯びて神社ブームというべき時流となった。書店やコンビニなどの目に付く場所に神道関連の本が並び、神社の歴史や作法、御利益等に国民は一定の興味を示した。正に「原点回帰」というべき現象であった。ご朱印には列をなし、神社は賑わいに溢れていた。そして都市部の神社は経済状況も良好となり、後継者との引継ぎも比較的やり易かったように思われる。

しかしながら、大都市以外の市町村では深刻な過疎化や少子高齢化から、神社のコミュニティの崩壊や経済破綻が問題視されている。10年が経過し神社ブームから一転、今度是一部マスコミからは在来宗教への驕りや不生を扱った批判的な記事が増加している。しかも、この比較的いい状態は我々神職の心を惑わせ、後継者問題から目を背けてしまっているのではないか。特に施策もなくやり過ぎている社家の方が多く見受けられるような気がしてならない。

平成という多くの自然災害に見舞われた激動の時代から新たな元号に移行され、世の中の社会構造は今後ますます変化を余儀なくされるであろう。仕事や生活がテクノロジー化し、AI（人工知能）等が今後社会の基盤となっても、伝統宗教が日本人の心の拠り所であることに疑いの余地はない。世界的に社会が行き詰まる中、神社やお寺など、精神文化が見直される時期が訪れるであろう。

神社は悠久の歴史や伝統文化を次世代に伝承してゆく使命を背負っているのは言うまでもなく、その大きな役割を担う神社の後継者が不在となり一度途切れてしまった伝統・文化を取り戻すのは容易な事ではない。今回の実態調査でも、「質問19：神職の魅力について該当するものとして」、「地域の人々や地域社会に貢献できる」・「伝統ある神社を継承できる」・

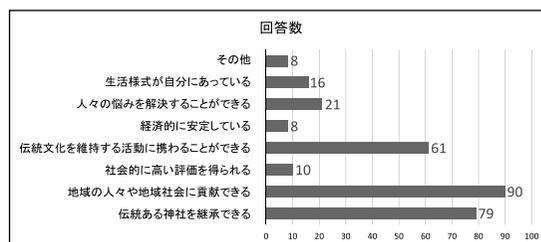
「伝統文化を維持する活動に携わる事ができる」という理由が大半を占めた。

【質問19】神職の魅力について、該当するものがあればいくつでも選んでください（新規）

（複数回答）

	回答数	平成29年
伝統ある神社を継承できる	79	27.0%
地域の人々や地域社会に貢献できる	90	30.7%
社会的に高い評価を得られる	10	3.4%
伝統文化を維持する活動に携わることができる	61	20.8%
経済的に安定している	8	2.7%
人々の悩みを解決することができる	21	7.2%
生活様式が自分にあっている	16	5.5%
その他	8	2.7%
合計	293	100.0%

無回答 2



後継者問題にこれといった特效薬や解決策など存在はしない。何も手を打たなければ、じわりじわりと影響は広がり、気が付けば手遅れという事になりかねない。我々神職は日々の生活の中で、後継者という種をどのように生かし、どのように育て神職という花を如何に咲かせていくかを常に模索しながら神明奉仕に努めるべきである。

今後も後継者を絶やす事無く、子々孫々連綿たる神職の業を次世代に紡いでいく為の施策を神社界全体で熟考していく事を強く望む。

## ■ 埼玉県・後継者問題実態調査 結果と比較（宮司回答）

**質問1** あなたの奉職する本務神社の支部名をお答えください（新規）

	回答数	平成29年
北足立支部	24	14.3%
人間東支部	15	8.9%
人間西支部	27	16.1%
比企支部	10	6.0%
秩父支部	22	13.1%
大里児玉支部	34	20.2%
さきたま支部	19	11.3%
埼玉東支部	17	10.1%
合計	168	100.0%

**質問2** あなたの奉職する本務神社の旧支部名をお答えください

	回答数	平成29年	平成19年
北足立支部	30	17.9%	17.0%
人間支部	42	25.0%	23.5%
比企支部	10	6.0%	7.7%
秩父支部	22	13.1%	13.8%
児玉支部	10	6.0%	7.7%
大里支部	24	14.3%	12.6%
北埼玉支部	9	5.4%	5.3%
南埼玉支部	16	9.5%	6.5%
北葛飾支部	5	3.0%	6.1%
合計	168	100.0%	100.0%

**質問3** あなたの奉職する本務神社の所在地（村、町、区、市）の規模は、以下のうちどれですか（新規）

	合計	平成29年
町村（郡部）	40	23.8%
人口10万人未満の市	43	25.6%
人口10万人以上30万人未満の市	55	32.7%
人口30万人以上100万人未満の市	17	10.1%
人口100万人以上の市	9	5.4%
合計	168	100.0%

**質問4** あなたの奉職する本務神社の位置する地区はどのようなものですか（新規）

	合計	平成29年
農山村	88	52.4%
住宅街	72	42.9%
工場街	0	0.0%
オフィス街	0	0.0%
商業地	7	4.2%
無回答	1	0.6%
合計	168	100.0%

**質問5** あなたの主たる生計はなんですか

質問	合計	平成29年	平成19年
神職専業（社入から）	72	42.9%	49.4%
神職専業（年金等）※新規	50	29.8%	
兼業神職	41	24.4%	37.8%
無回答	5	3.0%	12.9%
合計	168	100.0%	100.1%

[質問5] / 兼業神職（筆記回答）

- ・会社員
- ・デイトレイダー
- ・兼務神職、別に専業の神社に職員として勤務
- ・不動産収入
- ・幼稚園経営
- ・幼稚園職員
- ・年金
- ・教員
- ・公務員
- ・他の神社にて助勤として奉仕
- ・不動産業
- ・自動車販売業
- ・心理カウンセラー
- ・農業
- ・他の神社の非常勤

**質問6** あなたの性別は次のうちどれですか

	合計	平成29年	平成19年
男	157	93.5%	90.0%
女	11	6.5%	7.7%
合計	168	100.0%	97.7%

**質問7** あなたの年齢は次のうちどれですか（新規）

	合計	平成29年
20代	1	0.6%
30代	9	5.4%
40代	15	8.9%
50代	28	16.7%
60代	62	36.9%
70代	35	20.8%
80代	16	9.5%
90代	2	1.2%
合計	168	100.0%

**質問8** あなたの奉職する神社には後継者に予定している人（以下「後継者」といいます）がおられますか

	合計	平成29年	平成19年
いる	118	70.2%	79.5%
いない	50	29.8%	19.3%
無回答			1.2%
合計	168	100.0%	100.0%



## 「神職実態調査」報告書

**質問13** 後継者の現在の職名は次のうちどれですか

	合計	平成29年	平成19年
禰宜	56	47.5%	36.9%
権禰宜	26	22.0%	14.1%
出仕	3	2.5%	4.0%
兼務社の宮司	2	1.7%	4.0%
学生・生徒	18	15.3%	18.2%
その他	8	6.8%	18.7%
無回答	5	4.2%	4.0%
合計	118	100.0%	99.9%

[質問13] / その他 (筆記回答)

- ・ 教員
- ・ 市内他神社の宮司
- ・ 神社職員
- ・ 会社員
- ・ 権宮司
- ・ 児童 (小学生)

**質問14** 後継者の選定の際に問題となったことがありますか (複数回答)

	合計	平成29年	平成19年
特に問題はなかった	74	49.7%	45.6%
神社の経済的基盤に不安を感じた	28	18.8%	21.6%
後継者が神職に魅力を感じていなかった	8	5.4%	7.9%
後継者と現任宮司との間に価値観・考え方で相違があった	6	4.0%	4.4%
後継者が他の職業を希望していた	18	12.1%	11.8%
総代や地域住民の意向	4	2.7%	4.4%
その他	6	4.0%	4.4%
無回答	5	3.4%	
合計	149	100.0%	100.0%

[質問14] / その他 (筆記回答)

- ・ 神社が氏子100戸、後継が女性1人、生活があるので会社務め
- ・ まだ先なので今は分からない
- ・ 子供がおらず、後継が見つかるまで時間を要した
- ・ 女性である事で、氏子・地域住民の同意を得られるか
- ・ 幼少の為、まだわからない
- ・ 卒後20年位別生活の為、地域との結びつきが少ない
- ・ まだ子供なので、どうなるか、確たる保障はない
- ・ 後継者の奉仕時間 (年休の取り方)

**質問15** 後継者の決定に関して次のうちのどの要因が大きく働きましたか (複数回答)

	合計	平成29年	平成19年
本人の自主的選択	69	33.7%	26.0%
親の意向	45	22.0%	23.9%
社家としての使命感	57	27.8%	31.2%
地域社会の要請	14	6.8%	8.8%
神社の立地条件(都市や過疎)	0	0.0%	1.6%
経済的安定感	4	2.0%	4.1%
神社での生活様式	2	1.0%	0.7%
資格の取得に関する問題	9	4.4%	3.0%
その他	3	1.5%	0.9%
無回答	2	1.0%	
合計	205	100.0%	100.0%

[質問15] / その他 (筆記回答)

- ・ 地域 (田舎) に溶けこめるか、神社独自のやり方を受け入れられるか
- ・ 結婚

**質問16** 後継者の決定に関して次のうちのどの要因が大きく働きましたか (複数回答)

	合計	平成29年	平成19年
十分納得している	76	64.4%	57.6%
納得したようだが、まだ迷いが見られる	15	12.7%	15.7%
表面上は繼ぐようにしているが、実際には分からない	20	16.9%	16.7%
その他	3	2.5%	8.1%
無回答	4	3.4%	2.0%
合計	118	100.0%	100%

[質問16] / その他 (筆記回答)

- ・ 将来宮司になる (なっしてほしい) ことまでは納得していない。
- ・ 幼少の為、わからない
- ・ 勤人 (神社) なので奉職先の理解がないと①休めない②奉仕料などの問題が生じる
- ・ まだ子供なのでどうなるか、絶対繼ぐとは言いきれない。
- ・ 宮司の健康状況をみて

**質問17** 自分の子供 (後継者) が神社とは異なった職業に就きたいと言った場合、あなたは次のうちのどの対応をとっていたと思いますか

	合計	平成29年	平成19年
奉職するように強く子どもを説得する	10	8.5%	19.2%
子供の意思を尊重して認めたと思う	22	18.6%	12.1%
資格だけは取って将来的に後継者となることを考えるよう勧める	68	57.6%	52.5%
なりゆきに任せる	9	7.6%	6.1%
どう対応していいかわからない	0	0.0%	2.0%
その他	6	5.1%	2.5%
無回答	3	2.5%	5.6%
合計	118	100.0%	100.0%

## 「神職実態調査」報告書

### [質問17] / その他 (筆記回答)

- ・仕方がないので認めるが、他の人が見つかるまで奉職してもらう。
- ・資格は取るように観めるが、その後は意思を尊重する
- ・自分の子供は女性の為無理は言えない。
- ・持ち社だけだと収入が乏しいので兼業できないと生活ができない。
- ・後継者はいるので考えなくてよい

### 質問18 自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもよいと思いますか

	合計	平成29年	平成19年
よいと思う	26	22.0%	17.2%
いけないと思う	11	9.3%	14.1%
やむをえない	61	51.7%	54.0%
わからない	12	10.2%	5.6%
その他	3	2.5%	4.0%
無回答	5	4.2%	5.1%
合計	118	100.0%	100.0%

### [質問18] / その他 (筆記回答)

- ・娘の配偶者ならば良いと思う
- ・一般的に言えば、身内が後継者でなくても良いと思います。現任者が後継者を育て準備しておくべきだと思います。
- ・できるだけ血の繋がっている者に譲る。男女は問わない。
- ・「神社とは何か」しっかりと伝えられれば良いかと思うが、法人格を悪用することのないようにしなくてはならない
- ・娘婿なら問題ない。子供がいらないなら、養子縁組して法律上の親子として迎えるのも一考の余地もある。

### 質問19 神職の魅力について、該当するものがあればいくつでも選んでください (複数回答) ※新規

	回答数	平成29年
伝統ある神社を継承できる	79	27.0%
地域の人々や地域社会に貢献できる	90	30.7%
社会的に高い評価を得られる	10	3.4%
伝統文化を維持する活動に携わることができる	61	20.8%
経済的に安定している	8	2.7%
人々の悩みを解決することができる	21	7.2%
生活様式が自分にあっている	16	5.5%
その他	8	2.7%
合計	293	100.0%

### [質問18] / その他 (筆記回答)

- ・天皇家の弥栄に微力を。
- ・様々な情報発信、イベント企画ができる。多くの人と知り合える。
- ・希望や勇気、愛や平和、夢を与え続けられる
- ・良くも悪くも日本的なところ
- ・自分が継がなければ、他に継げる代替者がなく、神職家が絶えてしまう状況下で継いだら、やってみると大変だが、時に感謝して頂けたり、「仕事をしている」という充実感もある。ただ家族を養う必要上最低ラインの金銭収入の安定がなければならぬ。余談だが、定年がないのも魅力と言える。
- ・我家の伝統の継承

### 質問20 あなたは既婚者ですか (新規)

	回答数	平成29年
はい	115	97.5%
いいえ	3	2.5%
合計	118	100.0%

### 質問21 [質問20] の (いいえ) を選んだ人は、婚活パーティーや街コンなど、異性との出会いの場があれば参加してみたいですか (新規)

	回答数	平成29年
いいえ	3	
参加したい	0	0.0%
興味はあるが参加しづらい	1	33.3%
参加したくない	2	66.7%
その他	0	0.0%
合計	3	100.0%

### [質問21] / その他 (筆記回答)

- ・高齢です
- ・息子に参加させたい。

## 「神職実態調査」報告書

《これより質問 22 から質問 26 は、個別の事情を離れ一般論として回答いただいた。》

**質問22** 神社の後継者の決定に関して、次のうちのどの要因が最も大きく働くと思いますか（複数回答2つまで）

	回答数	平成29年	平成19年
本人の自主的選択	67	30.7%	23.9%
親の意向	33	15.1%	11.4%
神職家としての使命感	59	27.1%	34.2%
地域社会の要請	14	6.4%	9.5%
神社の立地条件(都市や過疎)	2	0.9%	3.4%
経済的安定感	25	11.5%	12.8%
神社での生活様式	2	0.9%	0.3%
資格の取得に関する問題	16	7.3%	4.7%
その他	0	0.0%	
合計	218	100.0%	100.0%

無回答 0

**質問23** 自分（宮司）が一生懸命神明奉仕していれば、子供（後継者）は必ず理解し、継ぐようになると思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	48	40.7%	54.0%
そうは思わない	44	37.3%	20.7%
わからない	26	22.0%	24.2%
無回答	0	0.0%	1.0%
合計	118	100.0%	99.9%

**質問24** 経済状況のよい神社ほど後継者は決まりやすいと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	72	61.0%	61.1%
そうは思わない	22	18.6%	24.2%
わからない	24	20.3%	12.1%
無回答	0	0.0%	2.5%
合計	118	100.0%	99.9%

**質問25** 都市部の神社の方が過疎地の神社よりも後継者は決まりやすいと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	50	42.4%	44.4%
そうは思わない	35	29.7%	35.9%
わからない	33	28.0%	18.2%
無回答	0	0.0%	1.5%
合計	118	100.0%	100.0%

**質問26** 自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもよいと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
いなくなってもやむをえないと思う	49	41.5%	14.7%
いなくなることはいけないと思う	41	34.7%	73.1%
わからない	19	16.1%	8.1%
無回答	9	7.6%	4.1%
合計	118	100.0%	100.0%

《これより質問 27 から質問 40 は、質問 8 で後継者に予定している人が『いない』と答えた方の回答である。》

**質問27** 現在後継者がいない理由について次の中からいくつでもお選びください

	回答数	平成29年	平成19年
後継者となる子弟が全くないから	23	41.1%	36.0%
後継者となる子弟に後を継ぐ意思がないから	11	19.6%	14.0%
あえて子弟に継がせようと思っていないから	12	21.4%	24.0%
後継者がまだ資格を取得していないから	4	7.1%	18.0%
その他	6	10.7%	8.0%
合計	56	100.0%	100.0%

[質問 27] / その他（筆記回答）

- ・ 経済的に無理
- ・ 子供が1人いるが、4歳で女子の為
- ・ 希望者複数で迷っている。
- ・ 現時点では、親族間でもそのような話をしていない。
- ・ 離婚により離れて暮らしている
- ・ 娘が一応資格はとったけれども外の忙しい仕事についてしまった
- ・ 独身

**質問28-1** [質問 27] で、「後継者となる子弟が全くないから」を選んだ人は、今後の後継者対策はどのようにしたいと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
現在自分で積極的に捜している	3	13.0%	11.1%
他の方にお任せしている	2	8.7%	0.0%
いずれ考えたいが今はまだ何もしていない	14	60.9%	72.2%
その他	2	8.7%	5.6%
無回答	2	8.7%	11.1%
合計	23	100.0%	100.0%

[質問 28-1] / その他（筆記回答）

- ・ その時が来たら支部に相談する
- ・ 20代でまだこれから
- ・ 後継者となってもよいと考える人が出てくるような魅力ある神社意義ある神社にしたいと努力中

## 「神職実態調査」報告書

**質問28-2** [質問 27] で、「あえて子弟に継がせようと思っていない」を選んだ人は、次の中からその理由をお選び下さい（複数回答）

	回答数	平成29年	平成19年
神職では経済的に生活が成り立たないから	10	40.0%	66.7%
神職には将来性が見込めないから	5	20.0%	16.7%
他の職業に就くことを希望しているから	3	12.0%	8.3%
神職に誇りや自信、社会的存在価値が見いだせないから	0	0.0%	8.3%
神社運営の仕事が負担だから	3	12.0%	0.0%
神職は自分の代までで十分だと思うから	2	8.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	2	8.0%	
合計	25	100.0%	100.0%

[質問 28-2] / その他（筆記回答）

- ・長男（40才）平成25年に死亡。次男（39才）は横浜に所帯を持ち、住居を持っている為
- ・過疎化が進み廃村に近い状態が故に

**質問28-3** [質問 27] で、「後継者がまだ資格を取得していないから」を選んだ人は、次の中からその理由をひとつだけお選び下さい

	回答数	平成29年	平成19年
まだ未成年だから	3	75.0%	25.0%
現在神職養成機関に在学中だから	0	0.0%	0.0%
都合でまだ資格を取得していない	1	25.0%	75.0%
合計	4	100.0%	100.0%

**質問29** [質問 28-3] で、「都合でまだ神職資格を取得していない」を選んだ人は、次の中からその理由をお選び下さい

	回答数	平成29年	平成19年
資格取得に要する長期の日数が確保できないから	0	0.0%	50.0%
資格取得に要する経済的負担がたいへんだから	1	100.0%	0.0%
資格取得（又は後を継ぐこと）を迷っているから	0	0.0%	50.0%
その他	0	0.0%	0.0%
合計	1	100.0%	100.0%

**質問30** [質問 29] で、「資格取得（又は後を継ぐこと）を迷っているから」を選んだ人は、次の中からその理由をお選び下さい

	回答数	平成19年
神職では経済的に生活が成り立たないから	0	66.7%
神職には将来性が見込めないから	0	0.0%
神道の理念と本人の価値観や性格があわないようだから	0	0.0%
神職に誇りや自信、社会的存在価値が見いだせないから	0	33.3%
神社運営の仕事が負担だから	0	0.0%
合計	0	100.0%

**質問31** 後継者の決定に関して、次のうちのどの要因が最も大きく働くと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
本人の自主的選択	23	46.0%	46.0%
親の意向	3	6.0%	8.0%
地域社会の要請	5	10.0%	10.0%
神社の立地条件	2	4.0%	0.0%
経済的要因	11	22.0%	16.0%
その他	0	0.0%	4.0%
無回答	6	12.0%	16.0%
合計	50	100.0%	100.0%

**質問32** 自分（宮司）が一生懸命神明奉仕していれば、子供（後継者）は必ず理解し、継ぐようになると思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	4	8.0%	14.0%
そうは思わない	17	34.0%	42.0%
わからない	25	50.0%	32.0%
無回答	4	8.0%	12.0%
合計	50	100.0%	100.0%

**質問33** 経済状況のよい神社ほど後継者は決まりやすいと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	36	72.0%	52.0%
そうは思わない	5	10.0%	24.0%
わからない	7	14.0%	14.0%
無回答	2	4.0%	10.0%
合計	50	100.0%	100.0%

**質問34** 都市部の神社の方が過疎地の神社よりも後継者は決まりやすいと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	30	60.0%	32.0%
そうは思わない	6	12.0%	32.0%
わからない	12	24.0%	26.0%
無回答	2	4.0%	10.0%
合計	50	100.0%	100.0%

## 「神職実態調査」報告書

**質問35** 自分の子供(後継者)が神社とは異なった職業に就きたいと言った場合、あなたは次のうちのどれを選択しますか

	回答数	平成29年	平成19年
子供の意志を尊重して認める	29	58.0%	60.0%
説得してあきらめさせる	1	2.0%	6.0%
なりゆきに任せ、何もしない	7	14.0%	4.0%
どう対応したらよいか分からない	2	4.0%	8.0%
その他	2	4.0%	10.0%
無回答	9	18.0%	12.0%
合計	50	100.0%	100.0%

[質問 35] / その他 (筆記回答)

- ・資格取得後なりゆきに任せる。
- ・経済的に豊かな神社なら、他人に譲る。  
他人が出現しなければ兼業
- ・説得できるよう努めるが、最終的には後継者の判断に任せる。

**質問36** 自分の子供が継ぐことが出来ないとき、血の繋がらない第三者に宮司職を譲ってもよいと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
よいと思う	26	52.0%	40.0%
いけないと思う	0	0.0%	12.0%
やむをえない	14	28.0%	34.0%
わからない	4	8.0%	4.0%
その他	0	0.0%	
無回答	6	12.0%	8.0%
合計	50	100.0%	98.0%

**質問37** 将来、神社に後継者がいなくなることがあってもやむをえないと思いますか

	回答数	平成29年	平成19年
いなくなってもやむをえないと思う	21	42.0%	26.0%
いなくなることはいけないと思う	20	40.0%	64.0%
わからない	8	16.0%	6.0%
無回答	1	2.0%	4.0%
合計	50	100.0%	100.0%

**質問38** 神職の魅力について、該当するものがあればいくつでも選んでください(複数回答)

	回答数	平成29年
伝統ある神社を継承できる	26	28.0%
地域の人々や地域社会に貢献できる	34	36.6%
社会的に高い評価を得られる	5	5.4%
伝統文化を維持する活動に携わることができる	18	19.4%
経済的に安定している	0	0.0%
人々の悩みを解決することができる	3	3.2%
生活様式が自分にあっている	4	4.3%
その他	3	3.2%
合計	93	100.0%

無回答	5
-----	---

[質問 38] / その他 (筆記回答)

- ・地域人々のより所として、できるだけ定期的に会合をもつ。
- ・武道、芸道同様、心身鍛錬の道につくことが出来る
- ・いろいろなお家を訪問することができる(祭典)

**質問39** あなたは既婚者ですか(後継者がいない方)

	回答数	平成29年
はい	36	72.0%
いいえ	14	28.0%
合計	50	100.0%

**質問40** [質問 39] で(いいえ)を選んだ人は、婚活パーティーや街コンなど、異性との出会いの場があれば参加してみたいですか

	回答数	平成29年
参加したい	0	0.0%
興味はあるが参加しづらい	6	12.0%
参加したくない	6	12.0%
その他	1	2.0%
無回答	37	74.0%
合計	50	100.0%

[質問 40] / その他 (筆記回答)

- ・離婚して一応子供居ます。後継者希望多数で困ってます。
- ・年齢的に無理です

◇自身の子弟を神職にするために普段から心がけていることがありましたら、参考までにお書き下さい

(筆記回答)

- 神社だけでない社会の活動や、あるいは研修等になるべく多く参加するように勧めている。
- 神職の大変な部分は言わず、社会に貢献することの大切さを語るようにしている。強要することはない(神職になることを)。誠実に祭祀に努める。
- 自分が神職として誇りと生き甲斐を以て、その職務を行っているという姿を見せること。また、経済的にも安定している(お金に困らずに神明奉仕に専念出来る)姿を見せること。
- 自分の姿を見せる。(子・家族に)。神社のことを一緒に行なう(子や家族と)。自分が宮司である時、様々な問題をクリアしてバトンが子に渡せるよう準備し、やっておく。地域の神社なので経済的に日常生活ができるよう経済基盤をしっかり立てておくようにする(兼業できるような職業につくこと)。
- 後継者問題について、社家の人々は社家としての責任と自覚をもって、子供達に神職を継がせるための家庭教育や説得させる位の積極性が必要と思う。
- 神職は、毎日が楽しく張り合いのある仕事である事を親が示す事にあると思います。また、日本の精神文化のすばらしさを常日頃より教え導く。
- 感謝の心を持つ事。
- 自分が楽しむ。
- 神社、神職に誇りを持って生きること。
- 一人息子でしたので、幼児の頃から、姉娘二人より、跡つぎである事を意識的に強張り、座席も、両親の次に・・・と、三人の一番下の子でも長男と言うことで、彼に教え・・・そのまゝ成人しました。
- 氏子のお話を良く聞き、地域と共に接して欲しい。地域の仕来りを大切に考え、時代の移り変りを十分に理解をし、氏子に神社とのつながりを良く説明する努力をすること。
- 奉仕神社に対し、日々の仕事に取り組む姿を見せること。年間を通して氏子の人達の参加できる行事を継続的に行なう事。神社の組織(総代、青年部、婦人部)と協力体制を整えること。神職として祭、行事以外でも自分できる活動を神社境内で行うこと(空手、柔道、茶道、俳句他)。
- 日常の参拝に声を掛けて同行して神社祭事活動に理解と必要性を(理解する様につとめる)知らせることで日本の伝統文化を継続する大切さを体得させていく。
- 後継者が世襲制でないので、質問事項に解答が困難である。
- 私は将来的に孫を後継者にと考えています。長男は会社務めの為、資格が無いものですから。現在孫は高2ですが国学院の高校に通い、将来は神職になるといっています。小さい時から、後を継ぐのは「あなた」だと常日頃から話しておりました。また、手伝える物は出来るだけ、手伝わせる様にしていまいりました。小さな神社ではありますが、「あなたが継ぐ」ということを意識の中に植えつけて来ました。
- 神社行事にできるだけ関与させる。
- 資格を得るチャンスがあれば取らせておき、将来本人がやる気をもったら奉仕してほしい。
- 伝統ある神社に伝わる300年継承されている獅子舞等に限らず、今後絶やす事なく護る。氏子の人達の手助けとなるように様々な面でサポートする事が神職としての努めであることを時々話す。
- 神職家として永く地域の人々と力を合せて神社を守ってきたことを伝えている。旅先などでも必ず神社参拝は行うようにしている。小さい時から家族で祭の見学などには出掛けていた。
- 特にありません。本人の人生ですから本人が選べばよいと思っています。
- 国学院大学の神道学科に入学させて神職資格を取得させる事。
- 幼い頃より神社の仕事を一緒にさせている(清掃から祭典準備、後片づけ等々)。

## 「神職実態調査」報告書

- 強要をしない。笑顔で、幸せでいる（共に勉強をして楽しさを伝え分かち合う）。頑張り続ける。出来る事は手伝わせる（頼って感謝をする）。子供が誇りだと思える環境、愛せる環境の中で生活をしていく。
- 機会があるたびに神事に参加させている。
- 外出する際はお参りしてから外出する。
- 神明奉仕は常の如しを信条と祭礼の執行に務めて参りました。私共の世代ではあたりまえの事ですが子供達は後継者になりましたが現状本務社は氏子の過疎化が進み廃村の地区もあり、旧来の神事芸能執行も難しくなりつつあります。適切な指導が後輩達に出来ないことを痛感いたしております。
- 一般の職業とは異なる事。
- 本務兼務の祭典に極力奉仕するよう本人（地方公務員）に日程調整を行わせている。
- 経済的安定無くして、後継者問題は考えられない。神社本庁、神社庁は、大社のみ意見が多分に尊重し、小社の現状を直視してないのではないか、御社頭に立って初めて、神職と言え。最早、本庁の机上の空論には辟易としている。現状の本庁は後継者問題に何の役目も果たさない。一部分の機能を除き、不要であると常々思う。
- 幼児期から地元の恵まれた自然環境に親しみ、子供らしく遊びを介した交友関係を促し、少年期には本人の好みに任せて剣道を習いつつ、地元で盛んな祭礼行事への参加、何よりも郷土愛が育つよう配慮。学業期では、将来の地元世代との交流を見据えて地域内の小・中・高の各学校に進学するように勧めた。
- 服装（白衣・袴姿）や仕事内容を見せることにより、神職としての自覚的なものを感じさせる。
- 社家の歴史と地域の成り立ち、並びに神社の伝統的な価値について日々、学んで欲しいと思い、心がけています。
- 経済が安定しているように見せかける事。やりがいのある職業と思ってもらえる様に見せかける事。楽しい仕事のように見せかける事。「子は親の背中を見て育つ」と言うが、まがりなりにも思い通りにいかないまでも人間として人格向上に勉めていると装い見せ、真面目な神職であるとふるまい見せる事。しかし、人間、千差万別の性格や身体があるので理屈通りに行かない事も、こちらの希望通りには伝わらない事だらけであるのも、現実であります。
- 神社から収入を得ることを目的とさせない神社を職業のひとつである、という考え方を持たせない。
- 「導く人貴し導くとも後姿で導く人さらに貴し」小生はこれを座右の銘として仕事に打込んできた。息子もさうした姿を感じとり自分もやらなければと思ったと思ふ。
- 祭の手伝いを小さい時からさせ、興味をもたせる様にしていた。
- 他の職についているが、休日等の休みの日に神職の仕事を手伝ってもらっている。又祭典もなるべく手伝ってもらっている。
- 時代により、神社の必要性が変化しており、今後（将来）がなかなか見通せない時代であるため、地域との関わりが重要である。
- 神社の歴史を理解させることと、神職の魅力について話すこと。

## ■ 埼玉県・後継者問題実態調査 結果と比較（配偶者回答）

**質問1** あなたの奉職する神社には後継者に予定している人(以下「後継者」といいます)がおられますか

	回答数	平成29年	平成19年
いる	108	78.8%	87.2%
いない	29	21.2%	12.8%
合計	137	100.0%	100.0%

**質問2** 後継者の性別は次のうちどれですか

	回答数	平成29年	平成19年
男	91	84.3%	90.9%
女	12	11.1%	8.5%
無効値	5	4.6%	0.6%
合計	108	100.0%	100.0%

**質問3** 後継者とあなたの関係は次のうちどれですか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
親子	98	90.7%	90.9%
親族	6	5.6%	4.9%
その他	1	0.9%	4.2%
無回答	3	2.8%	
合計	108	100.0%	100.0%

[質問3] / その他（筆記回答）

- ・ 養子
- ・ 養子
- ・ 義理の甥
- ・ 宮司の知人の娘さん
- ・ 長男の妻

**質問4** 後継者の現在の職業は次のうちのどれですか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
中学生以下	7	6.5%	10.4%
高校生	4	3.7%	5.5%
大学生(神道学科)	7	6.5%	7.9%
大学生(その他)	4	3.7%	3.0%
自社で神職専業	20	18.5%	17.1%
他神社で専業	15	13.9%	11.0%
他職と兼業	29	26.9%	24.4%
神職奉務はせず、会社等へ勤務	11	10.2%	16.5%
その他	3	2.8%	4.3%
無回答	8	7.4%	
合計	108	100.0%	100.1%

[質問4] / 他職と兼業（筆記回答）

- ・ 保育園
- ・ 教員
- ・ 病院、調理師
- ・ 個人経営会社へ勤めながら実家(社家)の手伝い程度
- ・ 会計事務
- ・ 薬剤師
- ・ 公務員
- ・ ハウスクリーニング
- ・ サービス業
- ・ 自営業
- ・ 農業

[質問4] / 神職奉務はせず、会社等へ勤務（筆記回答）

- ・ 教員
- ・ 公務員
- ・ 生コン会社
- ・ 会社員
- ・ 事務職
- ・ 薬剤師
- ・ 製造業
- ・ 郵便局

[質問4] / その他（筆記回答）

- ・ 主婦
- ・ 会社勤務が主体、年数回奉務)
- ・ 主婦 神職講習を受ける予定(第137回)

**質問5** 後継者の現在の職名は次のうちのどれですか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
禰豆	44	40.7%	34.1%
権禰宜	25	23.1%	14.6%
出仕	4	3.7%	3.0%
兼務社の宮司	1	0.9%	4.3%
学生	18	16.7%	22.0%
その他	11	10.2%	17.7%
無回答	5	4.6%	4.3%
合計	108	100.0%	100.0%

[質問5] / その他（筆記回答）

- ・ 幼稚園年中
- ・ 教諭
- ・ 小学生
- ・ 権宮司
- ・ 公務員
- ・ 会社員

**質問6** 配偶者の立場から見て、後継者の選定の際に問題になったと思われることがありますか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
特に問題はなかった	67	43.8%	38.7%
宮司が神社の経済的基盤に不安を感じていた	24	15.7%	14.5%
後継者が神社の経済的基盤に不安を感じていた	17	11.1%	12.1%
後継者が神職に魅力を感じていなかった	9	5.9%	6.7%
後継者が他の職業を希望していた	14	9.2%	11.2%
後継者と宮司との間に価値観・考え方で違いがあった	7	4.6%	3.7%
総代や地域住民の意向	5	3.3%	0.8%
その他	6	3.9%	12.3%
無回答	4	2.6%	0.0%
回答者数	153	100.0%	100.0%

[質問6] / その他（筆記回答）

- ・ 後継者が、会社で働いていた
- ・ 健康・精神面で心配した。
- ・ 子供が一人の為、自然にこの子しかいないと思ってしまった
- ・ これから問題になるかもしれませんが、

## 「神職実態調査」報告書

- スムーズに進むかもしれないので
- ・まだわからない

**質問7** 神社の後継者の決定に関して、次のうちのどの要因がもっとも大きく働いたと思いますか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
本人の自主的選択	71	38.6%	27.6%
親の意向	38	20.7%	31.1%
社家としての使命感	47	25.5%	18.3%
地域社会の要請	8	4.3%	8.2%
神社の立地条件(都市や過疎)	0	0.0%	2.2%
経済的安定感	6	3.3%	3.3%
神社での生活様式	0	0.0%	0.8%
資格の取得に関する問題	10	5.4%	7.4%
その他	2	1.1%	1.1%
無効値	2	1.1%	0.0%
回答数	184	100.0%	100.0%

[質問7] / その他 (筆記回答)

- ・今は、私が思っているだけです
- ・まだわからない

**質問8** 配偶者の立場から見て、後継者は自分の置かれている状況を十分に納得していると思いますか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
十分納得している	64	59.3%	59.1%
とりあえず納得しようだが、まだ迷いが見られる	12	11.1%	17.7%
表面上は継ぐように振る舞っているが、実際にはわからない	17	15.7%	12.2%
その他	3	2.8%	7.9%
無回答	12	11.1%	3.0%
合計	108	100.0%	99.9%

[質問8] / その他 (筆記回答)

- ・小さいので何も分かっていません
- ・まだわからない

**質問9** もし自分の子ども(後継者)が神社とは異なった職業に就きたいと言った場合、あなたは次のうちのどの対応をとっていたと思いますか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
子どもの意志を尊重するように宮司に働きかける	22	20.4%	17.0%
奉職するように強く子供を説得する	6	5.6%	8.0%
資格だけは取って将来的に後継者となるよう勤める	60	55.6%	58.5%
なりゆきに任せる	10	9.3%	8.0%
どう対応していいかわからない	0	0.0%	1.6%
その他	2	1.9%	2.7%
無回答	8	7.4%	4.3%
合計	108	100.0%	100.1%

[質問9] / その他 (筆記回答)

- ・神社後継者として養子になっているので

- 異なる職業に就くこと自体ありえない
- ・上記上から3番目と思うが、この先世の中がどのように変わるかわからず、なんともいえない。
- ・資格を取る事は勧めて、子供の意思を尊重する

**質問10** 自分の子どもがつぐことが出来ないときに、血の繋がらない第三者に宮司職を譲っても良いでしょうか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
よいと思う	18	16.7%	16.5%
いけないと思う	13	12.0%	12.2%
やむをえない	47	43.5%	52.7%
わからない	21	19.4%	10.6%
その他	0	0.0%	3.2%
無回答	9	8.3%	4.8%
合計	108	100.0%	100.0%

[質問10] / その他 (筆記回答)

- ・事情によって考えると思う。
- ・男女を問わず血の繋がった者にする

**質問11** 宮司が一生懸命神明奉仕していれば、子ども(後継者)は必ず理解し、神社を継ぐようになると思いますか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	45	41.7%	44.3%
そうは思わない	21	19.4%	24.4%
わからない	34	31.5%	29.0%
無回答	8	7.4%	2.3%
合計	108	100.0%	100.0%

**質問12** 子どもが継ぐためには、小さい頃からの家庭教育が大切であると思いますか

選択肢	回答数	平成29年	平成19年
そう思う	71	65.7%	50.5%
そうは思わない	12	11.1%	19.1%
わからない	18	16.7%	24.5%
無回答	7	6.5%	5.9%
合計	108	100.0%	100.0%

**質問13** 神職の魅力について、該当するものがあればいくつでも選んでください(新規)

選択肢	回答数	平成29年
伝統ある神社を継承できる	63	26.5%
地域の人々や地域社会に貢献できる	77	32.4%
社会的に高い評価を得られる	9	3.8%
伝統文化を維持する活動に携わることができる	51	21.4%
経済的に安定している	8	3.4%
人々の悩みを解決することができる	13	5.5%
生活様式が自分にあっている	8	3.4%
その他	1	0.4%
無回答	8	3.4%
回答者数	238	100.0%

【質問 13】 / その他（筆記回答）

- ・神職自身が日々心静かに手を合わせる場所にいることが心の平和につながることに気がつく
- ・魅力があるとは思わないが、人と人をつなぐ仕事が少しできると思う。

◇ご自身の子供を神職にするために普段から心がけていることがありましたら、参考までにお書きください

※自由記述欄

（筆記回答）

- 父親に会いたい時や神社に行きたがる時は、いつでも連れて行きました。回数を重ねるうちに子供から、父親のお手伝いをしたいと言うようになりました。
- 神社のことを大事にしないと我が家は生活がしていけない（神職として、人間として）家であると、普段から思っています。
- 子供は神職に成るつもりでいる。
- 経済的安定の死守。
- 自らが神明奉仕にいそしむこと（肩の力をぬいて、できる範囲で、ですが・・・）。
- 神棚に、お参りする様にと小さい時から教えている。
- 自分自身が毎朝神棚に供えて拝むこと、神様のお陰という事を感じさせる。・子供を連れて神社（他の神社含）へお詣りすること。旅行の中に神社も入れること（小学校卒業時、鎌倉、中学校卒業時は伊勢へ行った）。
- 特にはないが、強制はしないで自然に回りを見て育てて行ったと思います。
- 神職になることを強要はしないが、将来のことを全く話題にしないと意識が芽ばえないと思う。会話することを大切にしている。
- 現在は子供も成人を過ぎ奉職することに迷いはないと思いますが、幼い頃は出来るだけ身近に神社について触れることができるような環境にいさせることが良いと思います。これは私の場合であり、このような子育てしかしてこなかったの、あらゆる状況にあてはまるかはわかりません。
- 神明奉仕は義務ではなく幸せな作業・仕事だと思って楽しくやっていたら日々の小さな幸せにも素直に喜び感謝の心が育つと思います。この感謝の心があれば神職の道に進んでくれると思います。それを見せるのは宮司の仕事です。
- 親が公務員と神職の二足のわらじで働く事を子供はよく見ていて大変な事が解っているので、他の職業に就いて神社への関心がなかった。
- 子供が嫌がらない程度に、神社の仕事を手伝ってもらっています。
- 参拝に来た誰もが、ここに来て良かった・・・と思ってもらえるように接すること。
- 神社をお守りできることの尊さや、未来永劫存続させていかなければならない責任を、普段の生活の中で教えていくこと。
- 小さい時役割分担を決めて実行させる。
- 神職はすばらしい仕事だと常日頃言ひ聞かせてきた。
- よい子になるように一生懸命育てる。
- 地域の人々の為にも、神社の為にも継承してくれる事が大切なのではないかと思っている。
- 宮司（父親）との対話が最も重要であると考えています。先代の宮司（祖父）との関係や、親せきの方々との対話、つながりも大切にしてきました。
- 子どもの意志を尊重したいので、特に心がけていることはありません。親の姿を見て、子ども（女性）や将来の配偶者が望むならぜひ後継者となって欲しいとは思っています。

## ■ 埼玉県・後継者問題実態調査 結果と比較（後継者回答）

**質問1** あなた（後継者）と宮司との関係は次のうちのどれですか

	回答数	平成29年	平成19年
親子	99	90.0%	87.7%
親族	6	5.5%	6.1%
その他	5	4.5%	4.5%
無回答	0	0.0%	1.7%
合計	110	100.0%	100.0%

[質問1] / その他（筆記回答）

- ・婿入り
- ・養子
- ・他人の職員
- ・養子
- ・伯父

**質問2** あなたは男性ですか女性ですか

	回答数	平成29年	平成19年
男性	95	86.4%	86.0%
女性	11	10.0%	11.7%
無回答	4	3.6%	2.2%
合計	110	100.0%	99.9%

**質問3** [質問1] で（親子）と答えた人は続柄をお答えください。（新規）

親子	回答数	平成29年
	99	
長男・長女	83	83.8%
次男・次女	8	8.1%
その他	4	4.0%
無回答	4	4.0%
合計	99	100.0%

[質問3] / その他（筆記回答）

- ・三男
- ・次女の嫁
- ・長男の妻
- ・長男の嫁
- ・娘婿

**質問4** あなたの現在の職業は次のうちのどれですか

	回答数	平成29年	平成19年
中学生以下	5	4.5%	5.0%
高校生	3	2.7%	5.6%
大学生（神道学科）	7	6.4%	6.1%
大学生（その他）	4	3.6%	2.8%
自社で神職專業	24	21.8%	18.4%
他社社で專業	15	13.6%	11.7%
他職と兼業	30	27.3%	25.7%
神職奉務はせず、会社等へ勤務	12	10.9%	18.4%
その他	3	2.7%	4.5%
無回答	7	6.4%	1.7%
合計	110	100.0%	99.9%

[質問4] / 他職と兼業（兼業の場合は具体的に）  
（筆記回答）

- ・会社員
- ・（長男）保育園の先生（保育士）
- ・公務員
- ・ハウスクリーニング
- ・他職の休日に奉務している状況
- ・調理師
- ・埼玉県立高校
- ・祐宜に登録されて公務員として勤務しています
- ・自営業・サービス業
- ・会社務めをしながら出仕奉仕
- ・会計事務
- ・派遣
- ・自営業
- ・教員
- ・大学職員
- ・公務員（小学校教員）
- ・薬剤師

[質問4] / 神職奉務はせず、会社等へ勤務（勤務の場合は具体的に）（筆記回答）

- ・会社員
- ・公立小学校
- ・建設資材関係
- ・事務職
- ・公務員
- ・教員
- ・時々手伝う
- ・病院薬剤師
- ・郵便局

[質問4] / その他（筆記回答）

- ・年金と畑仕事
- ・主婦
- ・会社勤務のかたわら時々神職奉務
- ・公務員

**質問5** あなたの現在の職業は次のうちのどれですか

	回答数	平成29年	平成19年
禰宜	49	44.5%	36.0%
権禰宜	25	22.7%	15.7%
出仕	2	1.8%	2.2%
兼務社の宮司	2	1.8%	3.4%
学生	18	16.4%	19.7%
その他	6	5.5%	17.4%
無回答	8	7.3%	5.6%
合計	110	100.0%	100.0%

[質問5] / その他（筆記回答）

- ・権宮司
- ・奉務していない
- ・会社員
- ・サラリーマン
- ・教諭
- ・主婦
- ・小学校教員

## 「神職実態調査」報告書

**質問6** あなたが将来、神職となって神社を継ぐと考えたのはいつ頃ですか

	回答数	平成29年	平成19年
子どもの頃から	32	29.1%	19.6%
中学生の頃から	5	4.5%	5.6%
高校生の頃から	15	13.6%	15.6%
大学生の頃から	28	25.5%	20.1%
社会人になってから	21	19.1%	20.1%
定年あるいは退職が近くなっ てから	2	1.8%	5.0%
その他	3	2.7%	8.4%
無回答	4	3.6%	5.6%
合計	110	100.0%	100.0%

[質問6] / その他 (筆記回答)

- ・ 幼少の頃はそういうものだと思っていた。現在は、そうしなくてはならないのかなと考えはじめています
- ・ 結婚後
- ・ 親の年齢が高くなり自らの生活に余裕ができた

**質問7** あなた（後継者）の選定の際に問題となったと思われることがありますか

	回答数	平成29年	平成19年
特に問題はなかった	65	48.5%	33.2%
神社の経済的基盤に不安を感じていた	35	26.1%	22.1%
神職に魅力を感じていなかった	10	7.5%	12.8%
あなた（後継者）と宮司との間に価値観の相違があった	8	6.0%	4.8%
後継者が他の職業を希望していた	9	6.7%	13.7%
総代や地域住民の意向	0	0.0%	4.0%
神社での生活様式に抵抗があった	3	2.2%	4.0%
その他	4	3.0%	5.3%
合計	134	100.0%	100.0%

無回答 3

[質問7] / その他 (筆記回答)

- ・ 健康や精神面の心配
- ・ 兼業の家庭から、專業になった不安、とまどい
- ・ 女性神職であること。男性社会の中での交流、経営はむづかしい。
- ・ 分からない
- ・ 本義の追求と収益の追求とのバランスをどこに置くかでの悩み
- ・ 兼業とのかねあい（休みがとれるか、どの位のバランスになるか）

**質問8** 神社の後継者の決定に関して、次のうちの要因が大きく働いたと思われましたか（複数回答）

	回答数	平成29年	平成19年
本人の自主的選択	63	34.4%	24.7%
親の意向	54	29.5%	29.6%
神職家としての使命感	45	24.6%	19.1%
地域社会の要請	7	3.8%	9.1%
神社の立地条件（都市や過疎）	0	0.0%	1.1%
経済的安定感	4	2.2%	4.9%
神社での生活様式	1	0.5%	2.7%
資格の取得に関する問題	7	3.8%	6.7%
その他	2	1.1%	2.2%
合計	183	100.0%	100.0%

無回答 4

[質問8] / その他 (筆記回答)

- ・ 故郷への貢献
- ・ 親の背中

**質問9** あなたは後継者になることについて十分に納得していますか

	回答数	平成29年	平成19年
十分に納得している	68	61.8%	50.3%
納得しているが、まだ迷いがある	26	23.6%	24.6%
表面上は経ぐようにしているが、実際にはわからない	12	10.9%	11.2%
大いに不満があるがやむをえないと思っている	2	1.8%	2.8%
その他	0	0.0%	3.4%
無回答	2	1.8%	7.8%
合計	110	100.0%	100.1%

**質問10** あなたが神職とは異なった職業に就きたいと言った場合、現任宮司はどのような対応をとっていたと思いますか（複数回答）

	回答数	平成29年	平成19年
自分の意志を尊重してくれたと思う	51	40.5%	37.0%
最終的に宮司に就くことを前提なら認めてくれたと思う	50	39.7%	35.5%
納得してあきらめさせたと思う	5	4.0%	10.5%
なりゆきに任せて、何もなかったと思う	8	6.3%	8.0%
どう対応したのか検討がつかない	12	9.5%	6.0%
その他	0	0.0%	3.0%
合計	126	100.0%	100.0%

無回答 3

[質問10] / その他 (筆記回答)

- ・ 神職の資格を取得する

**質問11** あなたが神社を継承しなければ、血の繋がらない第三者が継ぐことになるとしたら、どのように考えますか

	回答数	平成29年	平成19年
よいと思う	19	17.3%	10.1%
いけないと思う	18	16.4%	22.9%
やむをえない	55	50.0%	46.4%
わからない	16	14.5%	13.4%
その他	1	0.9%	2.2%
無回答	1	0.9%	5.0%
合計	110	100.0%	100.0%

## 「神職実態調査」報告書

[質問 11] / その他 (筆記回答)

- ・その人に会って見ない限り分からない。
- ・神社を大切に考えている人なら問題ないと思う

**質問12** 神職の魅力について、該当するものがあればいくつでも選んでください (複数回答)

	回答数	平成29年	平成19年
伝統ある神社を継承できる	67	29.0%	27.2%
地域の人々や地域社会に貢献できる	71	30.7%	29.1%
社会的に高い評価を得られる	6	2.6%	6.5%
伝統文化を維持する活動に携わることができる	55	23.8%	22.3%
経済的に安定している	9	3.9%	2.7%
人々の悩みを解決することができる	14	6.1%	6.0%
生活様式が自分にあっていて	4	1.7%	4.1%
その他	5	2.2%	2.2%
合計	231	100.0%	100.0%

無回答	4
-----	---

[質問 12] / その他 (筆記回答)

- ・多様な人々と交流することが出来る
- ・すべてが魅力
- ・分からない
- ・親の姿を見ていて

**質問13** あなたは既婚者ですか (新規)

	回答数	平成29年
はい	60	54.5%
いいえ	48	43.6%
無回答	2	1.8%
合計	110	100.0%

**質問14** [質問 13] で (はい) を選んだ人は、後継者に予定している人 (以下「あなたの後継者」といいます) がおられますか

	回答数	平成29年
はい	60	
はい	38	63.3%
いいえ	22	36.7%
無回答	0	0.0%
合計	60	100.0%

**質問15** [質問 14] で (はい) を選んだ人は、あなたの後継者の現在の職業は次のうちのどれですか

	回答数	平成29年
はい	38	
小学生以下	23	60.5%
中学生から大学生	8	21.1%
神職	1	2.6%
兼業神職	1	2.6%
他職	2	5.3%
その他	1	2.6%
無回答	2	5.3%
合計	38	100.0%

[質問 15] / その他 (筆記回答)

- ・お腹の中にいる

**質問16** [質問 15] の (中学生から大学生) と (他職) を選んだ人で、あなたの後継者は将来、神職になりたいと思っていますか

	回答数	平成29年
中学生から大学生	8	
他職	2	
思っている	4	40.0%
思っているようだが、まだ迷っている	2	20.0%
まったく思っていない	0	0.0%
わからない	4	40.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	10	100.0%

**質問17** 神社庁や関係団体などが、若い後継予定者などを対象としたセミナーを開催した場合、あなたの後継者を参加させたいと思いますか

	回答数	平成29年
思う	14	12.7%
本人の意志による	33	30.0%
思わない	2	1.8%
わからない	6	5.5%
その他	1	0.9%
無回答	54	49.1%
合計	110	100.0%

[質問 17] / その他 (筆記回答)

- ・現時点では
- ・内容による

**質問18** [質問 14] の (いいえ) を選んだ人で、現在あなたの後継者がいない理由について次の中からいくつでもお選びください

	回答数	平成29年
後継者となる子弟が全くないから	16	14.3%
後継者となる子弟に後を継ぐ意思がないから	1	0.9%
あえて子弟に継がせようと思っていないから	2 ※二重回答	1.8%
後継者がまだ資格を取得していないから	2 ※二重回答	1.8%
その他	1	0.9%
無回答	90	80.4%
合計	112	100.0%

[質問 18] / その他 (筆記回答)

- ・昨年秋結婚したばかりでまだいない為
- ・結婚一年未満

## 「神職実態調査」報告書

**質問19** [質問13] で(いいえ)を選んだ人は、婚活パーティーや街コンなど、異性との出会いの場があれば参加してみたいですか

いいえ	48	
	回答数	平成29年
参加したい	12	25.0%
興味はあるが参加しづらい	15	31.3%
参加したくない	16	33.3%
その他	3	6.3%
無回答	2	4.2%
合計	48	100.0%

[質問19] / その他(筆記回答)

- ・興味がない。
- ・学生なので、わからない

◇後継者の立場として、今後この「後継者問題」に対しての対策や考えなどありましたら、参考までにお書きください

※自由記述欄(筆記回答)

- 高校生の後継者は他大学を希望しているが、後に国学院で神職資格を取得すると申している。
- 経済的安定はもちろんの事、神社や神職としての魅力を(そうでない部分を含めて)後継者と考える人へ常に良いタイミングで継続的に自ら発信をして行かないと、色々な情報が瞬時に取り入れられる現代では、中々すぐに後継者が決まらない可能性が高いと思う。
- すぐに答えが見つかるものではないと思う。やはり、幼少期より祭典等に係るようにして資格がないから参加できないとするのはいささか問題では。又、官司になる権正階の資格取得の条件を考え直すことが必要なのは。他の職業に就いてから講習に行くのは多くの面で困難ではないか。
- ①経済的に安定した仕事にならないと後継者問題は解決しない。②資格の取得が困難。一般大学を卒業しその後、養成講座に参加し、権正階まで取得したが、大学4年の時は時間に余裕がある中で可能であった。しかし、社会人になって、養成講座に参加すること(2回は特に)は無理と思われる。通信制や、長期にわたる講座参加の推進等を考えるべき。
- 大きな神社はわからないが、地域に根ざしている神社については女性神主もいるので、出来る限り神職を代々司るのが良いと思う。万が一子がいないう状況ならば、まずは家族で話し合いみんなで話していくことが大切と思う。
- 神社の運営ができるか否かではなく、運営できる様に努め、ハングリーに、又、楽しそうに一生懸命「働く」格好いい後ろ姿を見せる事。そんな神職を父以外見た事がない。それが神社界の問題と思う。神職は格好良くなくてはならない。現在それ(後継者問題)を問題としている上の世代が問題。
- ①女性神職が男性社会(氏子)の中で、神社経営をしなければならない不安。②海外留学を終了して企業に勤めている。この中で、権正階、指定神社実習、各連続30日の実習ができない。③社家20代目となることが予定されているが、神社の規模は氏子100戸と小さく講習は困難。④海外と神社の交流をする事、良い事と考えるか、社家の永続も含めて、困難なのか?
- 社家に育った子供には、神社人としての心構え等、自然に日常生活にとり入れ、素直な気持ちで神様と接されるように家庭生活を進めるのが良いと思う。勿論他に希望する学問があり、その仕事もやりたいと本人が望めば、その才能は親として伸してやりたい。何故なら、自分自身もその様な道を歩いて来たので。
- 都市部と地方で大きく異なると思う。
- 都市部に関しては社会的地位がある程度、高くなければ自ら神職を志す人間は減少していくと思われる。それは周囲の人間に高ステータスの方が多く為で神職に魅があるかないかは関係ない。
- 地方に関しては町の寿命による処が大きい。神社がどうかというよりは町の将来性がまず後継者問題を左右する。社格が高くても人がいなければ現代では意味をなさない。
- 様々な経営の形の神社があると思いますが、少しずつ神社経営を変えていかなければならないと考えています。「今まで通り」では神社も氏子も立ち行かない部分が出てきています。例えば間口を広げていくことや魅力を更に発信すること等がこれに当たるのではないのでしょうか。神職への「後継者」も柔軟に対応できる部分を増やせばと思います。
- 少子高齢化に伴い地域が神社を支えられなくなっている。その中で神職として生きていくためには兼業も増えていくと考える
- 現状で、神社の世界は専業神職、大きな神社中心に回り、兼業や地域の小さな神社の意向は反映されていない。そのような世界に後継者として自分の子供を就かせたいとは素直に思えない。これからも神社が継続していけるためにも神職の経済的安定(特に地方の小さな神社)と神社界の変化が必要と考える。
- 神社庁を中心として後継者の育成にもっと積極的に取り組むこと。神職の相互の協力体制をシステムとして確立すべき。

## ■ 神社の「現状」に関する調査

アンケート実施期間 平成 29 年 3 月～ 8 月

県内宮司数 250 人

回答数 168 人

回収率 68.8%

題名 「現状」に関するアンケート、「20 年後・社頭」に関するアンケート

神を敬い祖先を崇めることは、祖先から受け継がれてきた「日本人」としての道であり、心であり、美しい日本の国風です。しかし、時代は常に流れ動き、より新しいもの、より最新のものを探求していく時代へと移り変わっています。そのような時代背景の中、現代の神社を取り巻く環境、諸問題、地域、氏子の現状、20 年後の未来をどう考えるか。調査を行いました。

### トピック

「氏子」から「崇敬」神社  
へ変わる時期なのか？

神社の合祀が今後増える？

合祀すると氏子の減少に  
つながるのか？

総代の選出は、規則があり  
ながら地域に独自性が？

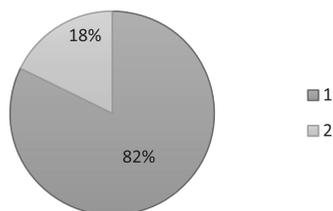
御朱印には温度差がある

御朱印をやっていないと  
伝えると、舌打ちされた  
経験ありますか？

## 「神職実態調査」報告書

**質問1** 現在、護持運営に関する事で悩んでいることはありますか？

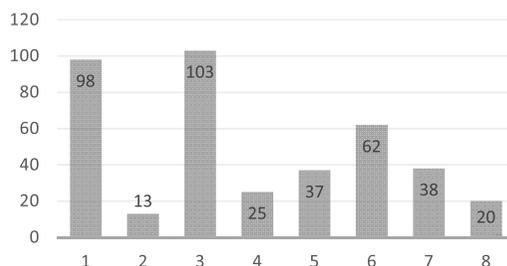
- 1、ある 139
- 2、ない 30



**「ある」と答えた方のみお答えください**

**質問2** 悩んでいることは、次のうちのどれですか？  
(複数回答可)

- 1、社殿の老朽化・境内整備
- 2、近隣住民とのトラブル
- 3、氏子の減少
- 4、総代の減少
- 5、祈願の減少
- 6、経済的不安
- 7、後継者問題
- 8、兼務社に関する事項
- 9、その他
  - 総代、氏子の意識の希薄・奉仕精神の低下
  - 氏子崇敬者の神道への考え方
  - 地域の少子高齢化

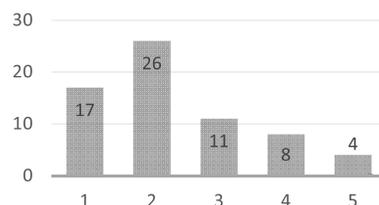


- 駐車場が少ない
- 参拝者の増加

**「ない」と答えた方のみお答えください**

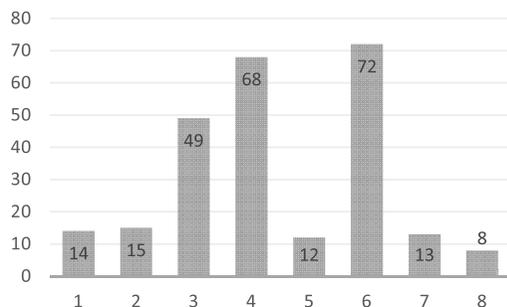
**質問3** 神社の20年後、気になる点は次のうちどれですか？ (複数回答可)

- 1、社殿の老朽化・境内整備
- 2、氏子の減少
- 3、祈願の減少
- 4、経済的不安
- 5、兼務社に関する事項
- 6、その他



**質問4** お社が鎮座している地域は、次のうちどですか？ (複数回答可)

- 1、駅前もしくは、徒歩5分以内
- 2、都心部に近い
- 3、山間部に近い
- 4、住宅街
- 5、新興住宅地
- 6、駅から徒歩20分以上
- 7、幹線道路沿い
- 8、その他
  - 田舎の中の住宅街のはずれ
  - 自然の中にあり住宅も増加の様子

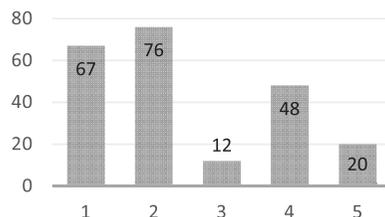


## 「神職実態調査」報告書

- 旧街道に沿った農村 近年住宅も増加
- 兼業農家を主体とした地域
- 農村部、調整区域で人口増加が見込めない

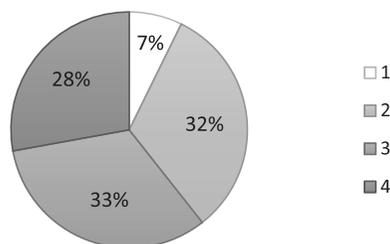
**質問5** 現在の収入の中心となるのはどれですか？（複数回答可）

- 1、社頭祈願
- 2、外祭
- 3、地代や家賃収入
- 4、神職以外の仕事
- 5、その他
  - 年金・釜杓・他社への助勤
  - 御朱印・神札類・投資



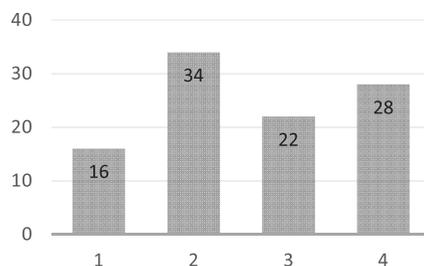
**質問6** 現在の経済状況についてお伺いいたします

- 1、満足している
- 2、おおむね満足している
- 3、どちらともいえない
- 4、あまり良くない



**質問7** 質問6で3・4とお答えの方にお伺いします。現在の経済状況で将来や、世代交代を見据えると、後継者に後を継いでほしい!と言えますか？

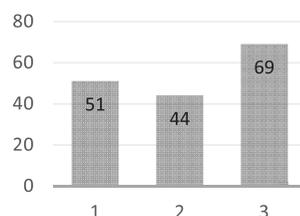
- 1、言える
- 2、言えない
- 3、わからない
- 4、後継者が考える問題
  - 地域、経済を考えると不安
  - 収入が安定しない兼業も厳しい
  - 外祭だけでは生活が出来ないと思う



### ※神社総代等組織についてお聞かせください

**質問8** 総代職の任命や依頼は、どのように決めていますか？

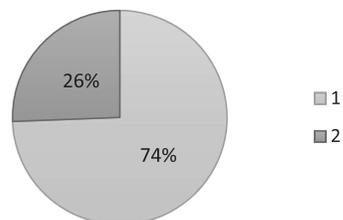
- 1、総代会で推挙し、宮司から依頼・任命
- 2、総代会で推挙し、総代会から依頼・任命
- 3、自治会からの推挙や、当番制で総代会が決定
- 4、その他
  - 宮司が推挙し総代がはかる
  - 地域ごとに氏子の代表者を決めて報告を受けるだけ



## 「神職実態調査」報告書

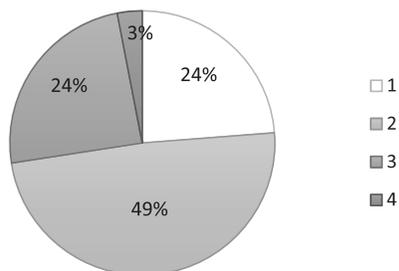
**質問9** 総代の任期は決まっていますか？

- 1、決まっている 125
- 2、決まっていない 43



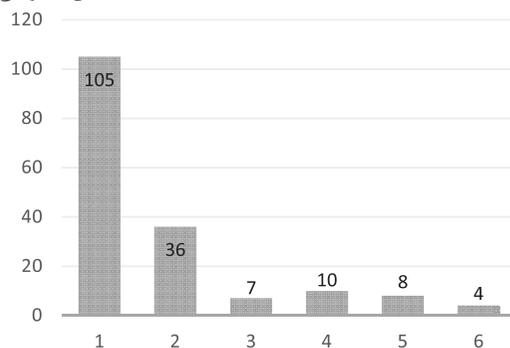
**質問10** 任期は、何年ですか？

- 1、2～3年で交代
- 2、2～3年（再任は妨げない）
- 3、申し出のない限り永年
- 4、その他



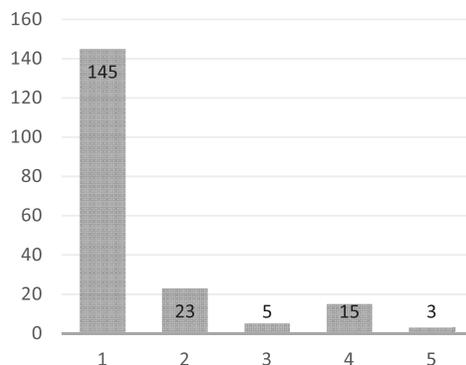
**質問11** 氏子組織についてお教えてください

- 1、氏子区域に氏子会があり、会費を徴収している
- 2、氏子会はない
- 3、崇敬会があり奉納寄付がある
- 4、崇敬会はない
- 5、講社がある
- 6、その他
  - 氏子会はなく、基本的には全戸を氏子としている
  - 氏子会はあるが、会費の徴収はしていない



**質問12** 氏子の現状についてお教えてください（複数回答可）

- 1、氏子が減っている
- 2、総代が減っている
- 3、総代の下部組織として氏子青年会を立ち上げようと考えている
- 4、氏子の増加を目的として、広報活動など考えている
- 5、その他
  - 氏子が増加し、協力的である
  - 初詣夏祭など行事の活性化をして新規行事の創設
  - 例祭等でお手伝い出来る方を氏子一般の方で募集しようと考えている
  - 青年会的に神輿愛好会が手伝ってくれている
  - 役に付く人が少ない
  - 第62回遷宮への奉賛金徴収の際減った
  - 氏子意識が無く、家を継ぐ方の氏子に対する関心が感じられない

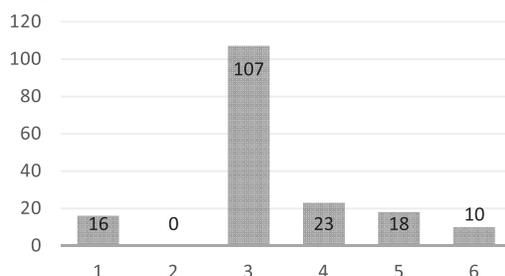


## 「神職実態調査」報告書

### ※兼務している神社について教えてください

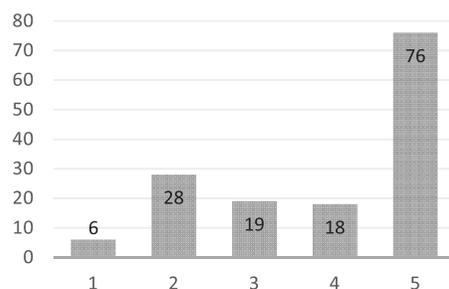
**質問13** 兼務をしているお社は、主にどなたが管理していますか？

- 1、宮司
- 2、職員
- 3、総代
- 4、氏子会
- 5、周辺住民（自治会含む）
- 6、兼務している神社は無い



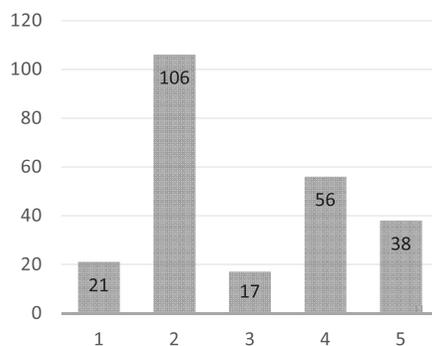
**質問14** 兼務しているお社へは、神事・祭典以外で行くことはありますか？

- 1、2週間に1回程度
- 2、1ヶ月に1回程度
- 3、3ヶ月に1回程度
- 4、半年に1回程度
- 5、神事・祭典以外では行かない



**質問15** 兼務をしている神社総代より、「氏子の減少と総代の高齢化で神事や祭礼が出来ない」と相談がありました。どのような対応をしますか？（複数回答可。また、ご意見があればお書きください）

- 1、それは困る。と返答し改善を求める
- 2、総代会を開き総代の総意と今後について話し合う
- 3、将来を見据えてみても、人口増加や氏子増加が見込めないので、しかたがないと思う
- 4、参列者が居なくとも、神事のみ継続して行っていく
- 5、氏子の総意があれば、合祀をするのも致し方ないと思う
- 6、その他・ご意見



- 今後若い人に継承していく事が必要
- 祭礼を少なくしてほしいと要望があり今後検討していかなければと考えている
- 高齢化による祭礼消滅の可能性がある
- 一応は、総代の主体性に委ねるが、後に、宮司を中心に意見を聞く
- 10戸、15戸で神社を護持運営している地域は20年後、30年後どうなるか分からない
- 当面は神事継続、最終的に合祀もやむを得ない。
- 維持継続できる方法を工夫相談する
- 氏子総会を開き、氏子一人になってもお社を守護することの意義・大切さを説き続ける
- 氏子の減少により宮司は合祀と考え、氏子は宗教法人の解散を考えているため対処に悩んでいる

## 「神職実態調査」報告書

---

- 祭礼の規模を小さくすることがあっても出来ないということはない。氏子も続けたいというのが本心であると考え
- 土日のお祭りが少しずつ多くなって来ている。年配者の参加、女性の参加が多くなっている
- 神職としては、祭祀の途絶は社としての意義を失うものである!と伝え、規模は見合う形に変更してでも継続すべきだと思います
- 兼務社は氏子会費で運営しているので、氏子の減少や脱退は深刻な問題である将来、神社の護持が出来なくなれば合祀もありえるかもしれない

## 返信頂いたご意見など

### 地域関係

- 地域なりに運営し、伝統的な行事として割り切って運営していくことも大事ではないか。
- 社殿の老朽化に伴う資金繰りをどうするか。限界集落になるところも生じている。
- 究極は神社法人の廃止もありうる。
- 経済の安定、総代氏子との信頼関係、自治会との協力、地域における存在感。
- 神社に協力的な人達のネットワークを大切に、気持ちよく参拝できる環境作りをする。
- 何故神社がここに鎮座し、数百年となく氏子の幸福を願ってきたのか事あるたびに説いている。
- 山間部の小さな神社の宮司については、経済的な面や後継者の問題は深刻。他の職業に就かざるを得ず、兼業で神職をこなしている状況であり、そういう立場の神職を大切にしていけないと神社は守れなくなると思われる。
- 生活様式、社会情勢の変化により現状維持を持って上出来に思う。地域差が大きいと思うが、勝ち組と負け組の構図になっていくのではないかと考える。
- 神社祭典を何とか続けていますが、農村部で人口が減り高齢化進んでいます。続けたくても続けられない時がくると感じています。
- 消滅都市と言われている山間部の神社にとって何か都市部の人たちを呼び込める策はないかと日々研究しております。

### 神職について

- 地元以外の参拝者に来てもらうための努力をするべき。
- 神職の意識 礼儀正しさ 人を包み込む人間でありたい。
- 繁栄神社の事業の成功事例報告会等宮司間の交流を深める。式年遷宮や皇室等に続く記念奉祝事業の奨励等、より積極的に行う。
- 楽しい神社運営、神社活動に地域を巻き込む事。『不易流行』を主体として、線引きをしっかりとしつつ、社会のニーズに応じて行く。神社を人気スポットにして行く事。
- 祭り、行事の継続が重要。宮司は兼職でも都合を付けて奉仕して行く事。兼職神職が多いと思いますが、専業の人を中心に進められているのは改めてもいいのでは。
- 宮司の日々の姿勢が重要。

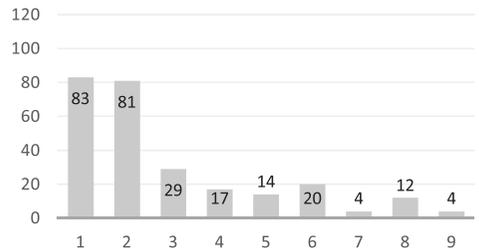
総代関係

- 総代になりたくないと言う人が増えた。
- 総代の普段の労をねぎらい、いろいろなことを説明し参列することに興味関心を持ってもらう。
- 年1回総代の研修会を開催　そこで各神社の問題について情報交換をし課題を教えあっている。
- 護持に当たる総代の若返りを行いたい。
- 神社の歴史や先代の人の苦労など祭典の折に話し護持への理解を求めている。
- 本務神社は運営等は宮司中心となり役員総代と話し合いながら運営している。
- 宮司は総代とよく相談を重ねること。地域内の様々な組織(婦人・青年・観光協会etc)との繋がりを深めてゆくこと。地域外のNPO法人等とも連携することを考える。総社など大きな神社とも助け合いを考える。何より宮司が熱意をもって臨む事。
- 各神社とも責任役員のリーダーシップ熱心さで左右される。
- 積極的に神社神道を伝え、崇敬心を有する氏子を育てて行くべきである。普段から総代とのコミュニケーションをとり、神社が抱えている諸問題を、腹を割って総代に伝え、共に考え良い方向に変えていく必要がある。地道に護持運営を心がけていく事が大切である。

■ 神社の「二十年後・社頭」に関する調査報告

質問1 「社頭繁栄」という言葉を、貴社に当てはめた場合、お考えになったのは次のうちどれですか？  
(複数回答可)

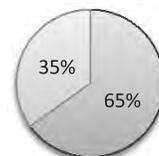
- 1、社頭繁栄を目指したい
- 2、常に、どのようにしたら良いか考えている
- 3、現在、実践のために考え調整している
- 4、現状に満足している
- 5、やりたいとは思うけれど、踏ん切りがつかない
- 6、やりたいが、人手の問題など、自分自身が大変になるのが嫌だ
- 7、現状維持で良いので、社頭の参拝者が来ると困る
- 8、やり方がわからない
- 9、その他



- 神社運営費を氏子負担に頼っており、現実には難しい
- 常に参拝者に対応できる人が神社にいる必要があり難しい。総代にお願いするにも負担がかかる
- 新しいことに積極的に関わることに對し、総代を始め関係者が協力的でない。

質問2 現在、社頭に関する事で悩んでいることはありますか？

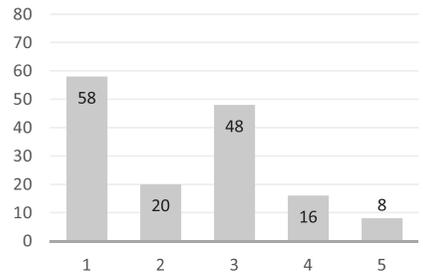
- 1、ある
- 2、ない



質問2で「ある」と答えた方のみお答えください

質問3 悩んでいることは、次のうちどれですか？

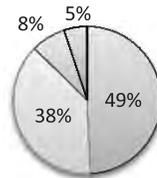
- 1、参拝者の減少
- 2、参拝者のマナー
- 3、祈願の減少
- 4、神札授与品について
- 5、その他
  - 神事芸能の衰退
  - 高齢化などによる氏子の減少
  - 御朱印
  - 社殿老朽化。御神木の老化
  - 収入の確保。特に神職の生活の基盤の安定化。
  - 神社の魅力向上
  - 不法投棄
  - 社殿改修、参拝者の安全確保。神社の伝統文化の理解と尊厳



質問3で「ない」と答えた方のみお答えください

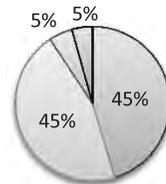
質問4 20年後、気になるのは次のうちどれですか？

- 1、参拝者の減少
- 2、祈願の減少（外祭を含む）
- 3、神札授与品などの取り扱いについて
- 4、その他



質問5 地域性のみで、社頭の繁栄に影響があると思いますか？

- 1、大いにあると思う
- 2、多少あると思う
- 3、ないと思う
- 4、わからない



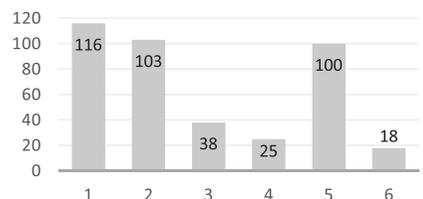
質問6 地域格差を考えたことはありますか？

- 1、ある
- 2、ない
- 3、わからない



質問7 社頭繁栄を目指すにあたり、特に重要に思うのはどれですか？（3つまでお答えください）

- 1、境内整備
- 2、社殿・境内の清掃
- 3、社務所や授与品の整理
- 4、職員や巫女の対応の教育
- 5、総代等の協力・理解
- 6、その他・ご意見
  - 常時勤務できる体制作り
  - 広報

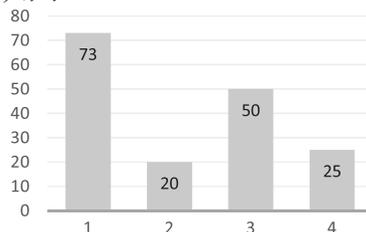


## 「神職実態調査」報告書

- 人口格差
- インターネット（ホームページ等）の活用
- 伝統文化の尊重と神社に対するの信仰の高まり
- 祭の活性化

**質問 8** 近年、御朱印を受ける方が多いですが、どのように感じますか？

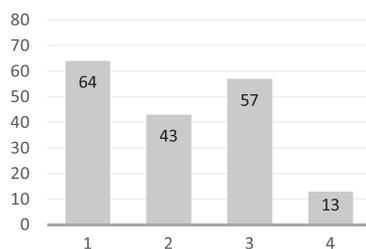
- 1、参拝者が増えて良い事だ
- 2、人手が足りないので来られても困る
- 3、御朱印を受け付けていない
- 4、その他



- 一時のはやり
- 兼務社への参拝を増やすことが出来ると思う
- 御朱印も神社参拝のきっかけと考え、信仰にいずれ通ずるものと思う
- 御朱印のみではなくお守りや神札をお求めいただけるとありがたい
- 一般的な300円で授与するのは安価。埼玉にも地域や支部や県内で原則統一して500円以上とすると経済的に良い

**質問 9** 御朱印ブームを一過性にするのではなく、参拝に来られた方々と話す機会を設けてそこから教化につなげていく。という意見があります。どう思いますか？

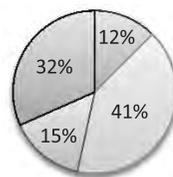
- 1、理想だと思う
- 2、現実的に難しい
- 3、信仰心というより、御朱印を買いに来る。という感覚でいると思う
- 4、その他



- 非難からは良い結果は出ない。気持ちの良い対応で次につなげたい
- 神仏に畏敬の念を持ち御朱印を受ける方も多く見受けられる。御朱印をきっかけに神社や神道に興味を持ってもらえれば、教化につなげていくことは十分にあり得ることだと思う
- 由緒書きを挟む神社も多いですが、とても良いと思っている。御朱印用の由緒書き(噛み砕いた表現、御朱印や神社についての豆知識を記載など)を作ったら良いかもしれない

**質問10** 木絵馬やのぼりなど、少数希望の場合、社名が同じ神社でまとまった数を共同購入するシステムがあったら利用したいと思いますか？

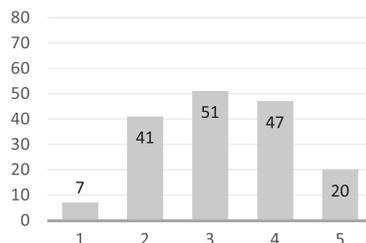
- 1、是非利用したい
- 2、機会があれば利用したい
- 3、興味が無い
- 4、利用しない



## 「神職実態調査」報告書

**質問11** 支部内や地域内で協力して御朱印に共通の印を押す取り組みを行うとしたら、どうしますか？

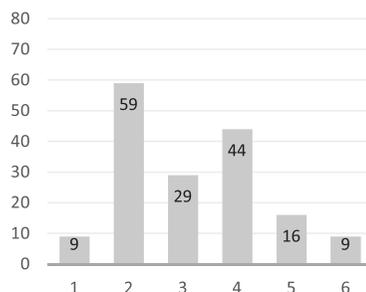
- 1、積極的に行う
- 2、周りに神社に合わせる
- 3、どちらとも言えない
- 4、行わない
- 5、その他



- 「〇〇市めぐり」というような印であれば良いと思う
- 各社の実態が異なるので如何なことが
- 共通の印というものがどういうものかわからない。旧入間支部で10数社の朱印掛け軸をやっていたが、神職・神社で意見が分かれた。自分は良いと思っていたが
- 神社の独自性がなくなる

**質問12** 都内で「夏詣」という取り組みが行われております。境内での教化や夏休み期間で小さな催しなど行っています。このように、新たな取り組みを行い、参拝者の増加を図ることへの興味はありますか？

- 1、取り組みたい
- 2、内容を考えて取り組みたい
- 3、どちらとも言えない
- 4、人手が足りないので出来ない
- 5、やらない
- 6、その他



- すでに取り組んでいる
- 地域の理解、協力を得るのが難しいと思います
- 鎮守の森コンサートを開催している

**質問13** 貴社の社頭での取り組みがあればお書きください。成功例や失敗例など改善点などもお願い致します（箇条書きで結構です）

- 参拝者はきれいな空間に訪れる。境内地内の除草、周囲の垣根の設置で境内境作り、境内トイレ清掃、いつも新しい紙垂の装飾など取り組んでいる
- 奉賛会を設立し、会費をいただく取り組み
- 月一回のペースで行事案内のチラシを発行
- 絵馬を納める場所、おみくじを置く場所の工夫をした。（社殿の近く、参拝者の目に付きやすい場所）

**質問14** 地域性や経済的問題、神社の特性があるかと思いますが社頭繁栄についてご意見や考えていることがあればお書きください（箇条書きで結構です）

- 地域内神社間で複数社を巡り、集める御朱印やお守りの頒布を始めた。参拝者が格段に多くなった
- 勧学祭をはじめて3年。受けは良さそうなので今後の継続が大切
- 夏に神社境内を利用した祭り、イベントを行い、総代氏子を中心に35年以上続けている。目的は子供の思い出作り

## 「神職実態調査」報告書

---

- 文化財となっている神楽や獅子舞を利用して地域活性化や町おこし事業に積極的にかかわっている
- ホームページを作成し、神社の特徴などを配信している
- 地元の小学校・自治会に対する積極的な働きかけ。教化を前面に押し出すと誤解を受けられることもある
- 地域の歴史や特性、特産物などを社頭から発信することで地域の人々の支持を得て、当社の社会的立場が向上した

### ◎神社の「現状」に関する調査について

多くの神社（宮司）が、氏子の減少に頭を悩ませていることが伺えます。

氏子が減少することにより、神社の運営基盤である氏子組織（氏子会）が衰退していき、社殿老朽化にともなう、新築改築を行うことや、記念事業や境内整備を行うにも、氏子からの浄財を募ることが難しくなります。結果、財源の不安から、計画までで、実行までいかない場合も多いと思われる。また、祈祷の減少と神札類の頒布減少となり、経済的不安が募り、後継者への後押しも消極的となり、負の連鎖の現状があると思います。

### ◎「神社の20年後・社頭」に関する調査について

参拝者の減少、祈祷と授与品頒布の減少に悩んでいることが伺えます。

多くの宮司が地域性による格差を感じながらも、社頭が繁栄する様に日々模索しているように思えます。

御朱印ブームについては、参拝者が増えて神社や神道に興味を持ってもらえ、教化に繋げていくことが出来る。という反面、一過性でしかなく、一部にマナーの悪い参拝者も居て困るなどの意見もあり、善し悪し半々の意見となっています。

### ◎まとめ

氏子と参拝者の減少に悩んでいる神社が多く、結果として、祈願の減少・授与品頒布の減少、そして社入の減少につながっています。今後、氏子が減り、まず、総代に管理を任せている兼務神社の護持運営管理は、難しくなっていくと思います。対策を講じた上で、の判断となりますが、理想論ではなく、合祀も視野に考えていかなければならないと思います。

また、神社の立地条件等を変えることは難しいですが、行動を起こすことは出来るのではないのでしょうか。費用を掛ければ様々なことが一同に出来ますが、少ない費用でも、出来ることは沢山あると思います。少しずつでもやることによって、変化が生まれてくると思います。

都市部と郊外部ともに、地域性・伝統芸能などの魅力を発信し、多くの人達にPRをし、氏子のみならず新たな参拝者の獲得に尽力する必要があると思います。

御朱印については、一過性で終わらせるのではなく、次にどのように神道教化として繋げていくかを考えなければなりません。ただ、ブームに乗っかって社入を上げればいいという安易な考えは、ただの商売と見受けられるので、好ましくありません。

何れにせよ、総代等の協力と理解のもとで、地域とのつながりを密にし、神社を地域のコミュニティの場としていければ、次世代へ繋げられるように思います。

## 埼玉県・後継者問題神職実態調査

(敬称略)

埼玉県神社庁 教化委員会

委員長	山田	禎久
副委員長	原	泰明
副委員長	神島	歩

### ○事業部

後継者問題担当

班長	新渡戸	常英
副班長	松岡	宏聡
班員	関山	敬純
〃	宮壽	昭代
〃	長谷川	洋美
〃	島野	剛史
〃	山中	俊宣
〃	高橋	陽一

神社の「現状」「神社の20年後・社頭」に関する調査担当

班長	嶋田	土支彦
副班長	千島	浩
班員	関山	知壺
〃	吉田	孝年
〃	宮本	修
〃	青木	誉智
〃	関口	公樹
〃	栗原	迪子

### ○アドバイザー

國學院大學 神道文化学部  
石井 研 士 教授

秩父神社 権禰宜  
新井 君 美